

令和 6 年度

普通科

【未来創造コース】

シラバス

(令和 6 年度 入学生以降)

第 1 学年

【国語科】

現代の国語

履 修 学 科	全科共通
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	現代の国語 数研出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	○読むと書く	○言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。
	5	●問題を提起する	○文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。
	6	◎言語技術の実践 1	●文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。 ●自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。 ◎情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使う。 ◎目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。 ◎読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。
前 期 期 末	7	○解釈を述べる事実	○比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使う。
	8	●意見を述べる無痛	○目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりする。
	9	◎言語技術の実践 2	●引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使う。 ●読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。 ◎話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使う。 ◎話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫する。
後 期 中 間	10	○新しい視点 1	○実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	11	●新しい視点 2	○目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。
		◎言語技術の実践 3	●主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。 ●自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫する。 ◎推論の仕方を理解し使う。 ◎論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりする。 ◎論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫する。
後 期 期 末	12.	○環境と科学	○個別の情報と一般化された情報との関係について理解することができる。
	1	●実用の文章	○目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する。
	2 3		●実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ●読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。

考査の実施	年 4 回実施 （前期中間・前期期末・後期中間・学年末）			
	主な評価内容		評価の観点	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 課題の提出	○	○	○
留意事項	使用する補助教材 ○漢字：「漢字ボックス 漢字検定級別対応（5級～2級）」（浜島書店）			

【国語科】

言語文化

履修学科	全科共通
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	言語文化 数研出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	○〈近現代編〉近代小説(一)	○文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 ○作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ●言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。
	5	●〈近現代編〉近代小説(一) 探究の扉	●作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。
	6	◎〈古文編〉説話	◎文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。
前 期 期 末	7	○〈漢文編〉入門	○我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ○作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。
	8	●〈古文編〉随筆(二)	●古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。
	9	◎〈古文編〉和歌	●自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 ◎作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。
後 期 中 間	10	○〈近現代編〉詩歌	○我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	11	●〈漢文編〉故事	○自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。
		◎〈古文編〉軍記物語	●我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ●作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する ◎作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。
後 期 期 末	12.	○〈漢文編〉思想	○我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ○作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。
	1	●〈近現代編〉戦争小説	●我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	2		●作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。
	3		

考査の実施	年4回実施（前期中間・前期期末・後期中間・学年末）			
	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 課題作品の提出	○	○	○
留意事項	使用する補助教材 ○漢字：「漢字ボックス 漢字検定級別対応（5級～2級）」（浜島書店）			

【地歴公民科】

公共

履修学科	普通科，商業科，美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「新公共」（第一学習社）

学期・月		項 目	学習内容（ねらい）・評価の観点
前期 中間	4	第1編 公共の扉	・人間としての在り方生き方について理解する ・公共的な空間と人間、個人の尊厳や自主・自立に着目して考える。 ・公共的な空間の諸課題を主体的に解決しようとする。
	5	第1章 公共的な空間をつくる私たち	
	6	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	
前期 期末	7	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解する。 ・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら考察する。 ・政治参加・主権・安全保障などについて諸課題を主体的に解決しようとしている。
	8	第2章 政治的な主体となる私たち	
	9	主題4 政治参加と公正な世論形成 主題5 国際社会と国家主権 主題6 日本の安全保障と防衛	
後期 中間	10	主題7 国際社会の変化と日本の役割	・現実社会の諸問題に関わる主体として必要な情報を身に付ける。 ・社会参画を視野に入れ、主題解決に向け協働・考察・構想して表現する。 ・グローバル化した現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	11	第3章 経済的な主体となる私たち	
	12	主題13 経済のグローバル化 ⑦地球環境問題 ⑧資源・エネルギー問題 ⑨国際社会のこれから	
後期 期末	1	主題8 雇用と労働問題	・経済の基本的なしくみと特徴を理解する。 ・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら考察する。 ・雇用問題・職業観・市場機能について主体的に学び考えようとしている。
	2	主題9 社会の変化と職業観	
	3	主題10 市場経済の機能と限界	

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に，国家及び社会の担い手として，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
【評価方法】			
授業態度		○	○
発問評価	○	○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	

ノート提出	○	○	○
定期考査（年4回）	○	○	
留意事項	※各コース担当で進度調整を行う場合もある。		

【数学科】

数学 I

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	4単位
教科書	新編 数学 I (数研出版)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	第1章 数と式 第1節 式の計算 1 多項式の加法と減法 2 乗法 3 因数分解	・ 式を目的に応じて1つの文字に着目して整理するなどして既に学習した計算の方法と関連付けて多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。
	5	第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算	・ 数の体系についての理解を深め、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。
	6	第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式	・ 不等式の解の意味や性質を理解し、1次不等式を解く方法を考察し、具体的な課題の解決に1次不等式を活用する力を培う。
前期期末	7	第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件	・ 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。
	8	3 逆・対偶・裏 4 命題と証明	・ 2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解し、2次関数の式とグラフの関係について、多面的に考察する。
	9	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ	
後期中間	10	第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	・ 2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。
	11	第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式	・ 2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。
		第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係	・ 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。
学年末	12	3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用	・ 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決する力などを培う。
	1	4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理・余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用	・ データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な手法などを選択し、分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力などを養う。
	2	第5章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間の関係 6 仮説検定の考え方	
	3	課題学習	

考查の実施	前期中間・前期期末・後期中間・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【理科】

化学基礎

履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	3単位
教科書	「新編化学基礎」(東京書籍)
副教材	「ニューサポート新編化学基礎」 (東京書籍)

履修学科		普通科(未来創造・保育)	
学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	1編 化学と人間生活 第1章 化学とは何か	- 物質の分離・精製や元素の確認などの実験を通して、単体・化合物及び混合物について理解する。 - 粒子の熱運動と温度及び物質の状態変化との関係について理解する。 - 原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解する。
	5	第2章 物質の成分と構成元素	
	6	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表	
前期 期末	7	2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	- イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。また、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。 - 共有結合を電子配置と関連づけて理解する。また、分子からなる物質の性質を理解する。 - 金属結合及び金属の性質を理解する。
	8	2節 分子と共有結合	
	9	3節 金属と金属結合	
	9	4節 化学結合と物質の分類	
後期 中間	10	3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式	- 物質と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。 - 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 - 酸と塩基の性質を理解する。また、酸・塩基の強弱と電離度の大小についても理解する。
	11	2章 酸と塩基	
	12	2章 酸と塩基	
後期 期末	1	3章 酸化還元反応	- 水素イオン濃度とpHの関係を理解する。 - 中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 - 酸化と還元が電子の授受によることを理解する。 - 酸化還元反応と日常生活や社会とのかかわりについて理解する。
	2	3章 酸化還元反応	
	3	終章 化学が拓く世界	

評価の割合	知識・技能(考査90% 平常10%) 思考力・判断力・表現力(考査60% 平常40%) 主体的に学びに向かう態度(平常100%)			
考査の実施	年4回実施			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
留意事項	3 小テスト	○	○	
	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「ニューサポート新編化学基礎」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。			

【保健体育科】

体 育

履 修 学 科	普通科、商業科、美術・デザイン科
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	3 単位
教 科 書	アクティブスポーツ 2024

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期	4	体づくり運動・集団行動	・1年間の授業展開を伝えるとともに、体育の授業で目標としている評価のポイントを理解させる。 ・集団行動の中で約束や決まりを守り、機敏的確に行動することを身に付ける。 ・体力を高め目的に適した運動能力を身に付ける。 ・現在の自分の体力を知り、今後の授業に活かす。 ・身体の柔軟性と調整能力を高め、様々な身体表現ができるようにさせる。
	5	スポーツテスト、陸上（走・跳・投）	
	6	ダンス（ラジオ体操）	
	7	バレーボール	・個人技能（パス・レシーブ・サーブ）の基本技能を習得すると共に、集団プレーの在り方を学び、ゲームに活かす工夫をさせる。 ・プレー中の安全に配慮しながら、状況に応じた技能を発揮できるようにさせる。
	8	ソフトボール	
	9		
後 期 中 間	10	剣道(男子)・ダンス(女子)	・武道の精神を理解させ、安定した精神力の育成と武術の向上を目指す。 ・身体表現力を高めることを通して、自己表現力を高め、個性の伸長を目指す ・ラケット操作を身に付け、シャトルコックの特性を理解し、基本技能を身に付ける。
	11	バドミントン	
学 年 末	12	バスケットボール	・接触プレーの多い球技種目を通して、チームの協調性とルールの順守の大切さを学ばせ、協力し合いながら、パスやドリブル・ボールコントロールの基本技術を身に付け、状況に応じた技能を発揮できるようにさせる。 ・スポーツの歴史・文化的特徴や現代のスポーツの特徴を知り、体を動かす楽しさや心地よさを味わう。
	1		
	2	体育理論	
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・実技試験の割合は以下の通り。 知・技（実技試験 9 割、実技試験外 1 割） 思・判・表（実技試験 8 割、実技試験外 2 割） 主体的（実技試験外 10 割）			
考査の実施	実技試験による評価			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 実技・考査試験	○	○	
	2 授業態度			○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	運動の必要性を自覚させ、運動習慣の定着と体力向上に努力する姿勢を身に付けさせる。常に集団の一員としての在り方を考えさせ、進んで取り組む資質や改善する能力を養う。また、周囲の安全に気配りできる視野を育成し、互いを労われるようにする。 健康と安全、周りとの協調性を認識しながら、スポーツを生涯の友として取り組む習慣を育成する。			

【保健体育科】

保 健

履修学科	普通科、商業科、美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	1単位
教科書	高等学校 保健体育 Textbook, Activity

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	第2章 安全な社会生活 第1節 安全な社会づくり	・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や、歩行などの適切な行動が重要であることについての理解を深める。
	5	第1章 現代社会と健康 第1節 健康の考え方	・日本の健康水準が、科学技術や経済の発展に伴って向上してきたこと、病気の傾向が変化してきていることを理解する。
	6		・「ヘルスプロモーション」の定義について理解することができる。
前期期末	7	第1章 現代社会と健康 第2節 現代の感染症とその予防	・感染症を防ぐための対策について、感染の仕組みとともに、正しい知識をもつことができる。
	8	第3節 生活習慣病などの予防と回復	・性感染症の予防について正しく理解することができる。
	9		・生活習慣病の原因と、その予防に関する3つの段階について正しく理解することができる。
後期中間	10	第4節 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	・健康的な食生活のための栄養素の働きや食事摂取基準について、正しく理解をもつことができる。
	11		・がんを早期に発見することの重要性について知り、がんの予防や治療に関する正しい知識をもつことができる。
学年末	12	第5節 精神疾患の予防と回復	・喫煙者本人のみでなく周囲の人への健康影響などについて理解を深め、喫煙に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。
	1		・アルコールの作用や、それに伴う健康障害についての理解を深め、飲酒に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。
	2		・薬物乱用による心身の健康や社会的な影響について、正しく理解することができる。
	3		・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、精神活動が不全になった状態であることについて理解を深める。
			・心と体のつながりを知り、心の健康を保つための方法について正しい知識をもつことができる。

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期期末・学年末考査			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 課題提出	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれぞれを支える社会環境づくりが重要留意事項であるということから、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。			

【芸術科】

音楽Ⅰ

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修形態	選択必修
履修単位	2単位
教科書	教育芸術社 MOUSA 1

学期・月		項目	ねらい・教材など
前期中間	4	・「音楽Ⅰ」学習のためのガイダンス、アンケート ・校歌を中心とした「歌唱」 （日本の歌・イタリアの歌）（練習・テスト）	・これまでの音楽学習歴や、音楽に関する興味関心度などの調査 ・発声を学び、伸びやかに歌う。外国語の歌に触れ、日本語の歌との違いを感じ取る「教科書・CD」
	5	・「器楽」（ピアノを中心とした鍵盤楽器）の基礎学習（練習・テスト）	・鍵盤に慣れる 「星に願いを」他
	6	・クラッピング（リズムアンサンブル）練習および発表（テスト） ・基礎的な楽典および西洋音楽の歴史など①	・リズムを理解し、コミュニケーションと表現力を学ぶ ・発表時のマナーを学び、他の演奏を聴き合いながら表現の違いを感じ取る。 ・教科書、ワークなど
前期期末	7	・ピアノ練習および実技テスト	・鍵盤に慣れるとともに音階や曲の形式について学び、読譜の基礎を確認する
	8	・西洋音楽の歴史（バロック・古典派）	・ワークブックを使用し、楽典の基礎を学ぶ
	9	・ミュージカル映画鑑賞（感想文提出） ・基礎的な楽典および西洋音楽の歴史など②	・西洋音楽の歴史に触れる、作曲家、作品について学ぶ（CD鑑賞など）
後期中間	10	・ドイツリートに触れる「歌唱」実技テスト	・ミュージカルに触れ、制作の舞台裏や表現力等を学ぶ
	11	・ミュージックベル合奏 ・基礎的な楽典および西洋音楽の歴史③ ・ピアノ課題（練習） 日本の伝統芸能について①	・外国語の歌（ドイツ語）に触れ、文学作品との関連を知る ・合奏を通して互いに聴き合いながら曲を仕上げ、表現することを学ぶ ・日本の伝統芸能の成り立ちなどを学ぶ
学年末	12	・ミュージックベル合奏の練習および発表	・発表時のマナーを学び、他の演奏を聴き合いながら表現の違いを感じ取る。
	1	・ピアノ練習およびテスト ・日本の伝統芸能について② ・CD,DVD、動画 鑑賞	・ワークブックを使用し、楽典の基礎を学ぶ ・ロマン派の時代背景や作曲家、作品について学ぶ（CD鑑賞等）
	2		・日本の伝統芸能の成り立ちなどを学ぶ
	3		

考査の実施	年4回			
評価の割合	課題評価（考査含む）と平常点を総合的に評価する。			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 出欠状況			○
	3 実技課題	○	○	○
	4 提出課題等	○	○	○
	5 定期考査	○	○	
留意事項	音楽経験（ピアノを習っている、習ったことがない）などで評価が大きく左右されないように、形勢的評価での評価とします。（今の自分のレベルから上達した部分を評価します） 実技の取り組み具合が大きくかわります。 保育コースは検定に関連した課題などにも取り組みます。			

【芸術科】

美術 I

履 修 学 科	普通科
履 修 学 年	第1学年
履 修 形 態	選択
履 修 単 位	2単位
教 科 書	高校生の美術 I

学期・月		項 目	ねらい・教材等
前 期 中 間	4	美術の学習のガイダンス	・色鉛筆、アクリルガッシュ絵の具などの画材に触れ、 絵画、デザインにおいて美術の大切な要素となる色の特 徴や色の選択、混色、重色を学習する。 ・複数の図法を用い、スケッチを通して描くことに慣れ ながら、形や質感をとらえる力を身につける。
	5	＜色彩と形＞ 色の特徴	
	6	形の特徴	
前 期 期 末	7	＜絵画制作＞	・身近な風景をスケッチし、構図、線遠近法を学習する。 ・絵の具の表現方法を学び、風景画や自画像を制作する。
	8	風景画を描く	
	9		
後 期 中 間	10	＜彫刻制作＞	・彫刻作品に込められた作者の想について考えながら、 彫塑作品に対する鑑賞の能力を養う。 ・作品のテーマやモチーフを考えながら、自然素材の塊 からかたちを掘り出し、彫刻作品を制作する。
	11	塊から掘り出す彫刻	
	12		
後 期 期 末	1	＜デザイン＞ 日本美術	・日本美術の歴史や伝統工芸を学習し、美術文化への鑑 賞する力を養う。 ・造形的なよさや美しさ、目的や条件などを基に美的感 覚をはたらかせながら、生活と密着する現代のデザイ ン事情について学習する。
	2	暮らしの中のデザイン	
	3		

評価の割合	課題評価（考査含む）と観点別評価を総合的に評価する。			
考査の実施	年2回実施 前期期末・後期末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
	5 考査	○	○	
留意事項				

【外国語科】

英語

コミュニケーション I

履修学科	普通科（未来創造）、商業科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	3単位
教科書	All aboard! English Communication I （東京書籍）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	中学既習事項の確認・復習、高校英語への導入 Warm-up Pre-Lesson 1 My Name Is Ito Neko Pre-Lesson 2 I Like Junk Food!	教材：「英単語ターゲット 1200」 「書き込み式ノート英単語ターゲット 1200 Workbook 1」 「All aboard! ワークブック」 〔題材内容〕世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。 〔言語材料〕過去形 〔題材内容〕オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。 〔言語材料〕進行形：〈be 動詞＋動詞の-ing 形〉
	5	Lesson 1 Breakfast around the World	
	6	Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	
前期 期末	7	Lesson 3 A Train Driver in Sanriku	〔題材内容〕被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える。 〔言語材料〕助動詞：can, will 〔題材内容〕海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する。 〔言語材料〕to 不定詞：〈to＋動詞の原形〉 〔題材内容〕高校のユニークな部活動を通して、好きなことと将来の夢について考える。 〔言語材料〕動名詞：〈動詞の-ing 形〉
	8	Lesson 4 A Miracle Mirror	
	9	Lesson 5 Learning from the Sea	
後期 中間	10	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period	〔題材内容〕江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。 〔言語材料〕受け身：〈be 動詞＋過去分詞〉 〔題材内容〕アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える。 〔言語材料〕比較表現：〈-er〉〈the -est〉〈as＋原級＋as〉 〔題材内容〕ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える。 〔言語材料〕現在完了形：〈have [has]＋過去分詞〉
	11	Lesson 7 A Diary of Hope	
		Lesson 8 A Door to a New Life	

後 期 期 末	12	Lesson 9 Fighting Plastic Pollution	[題材内容] プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。
	1	Lesson 10 Pigs from across the Sea	[言語材料] 名詞を後ろから説明する分詞
	2		[題材内容] 第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。
	3		[言語材料] 関係代名詞：who, which

考查の実施	前期中間考查・前期期末考查・後期中間考查・学年末考查			
評価方法	主な評価内容			
観点別評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考查	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動			○
留意事項	・各レッスンにおいて、学習すべき内容を精査し、要点を理解させながら取り組ませる。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。			

【家庭科】

家庭基礎

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・食生活をつくる 食生活の現状と課題 栄養素と食品	・食事の役割や栄養素の種類と機能、食生活の課題について理解する。
	5	食品の保存 調理実習	・調理の安全や衛生について考える。
	6	・住生活をつくる 住まいの計画 安全で衛生的な住まい	・調理の基礎を学び、調理法を理解する。 ・食の安全や衛生、配膳や食事のマナーを理解する。 ・ホームプロジェクト ・ライフスタイルに応じた住空間の構成を理解する。 ・安全な住まいについて考える。
前期 期末	7	・子どもと共に育つ 親の役割	・乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育について理解する。
	8	子どもの成長のようすと生活	
	9	・高齢社会を生きる ・共に生き共に支える	・高齢社会について理解する。 ・家族や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活していくことの重要性について理解する。
後期 中間	10	・衣生活をつくる 衣服の機能を考える (衣服材料を知る)	・被服の機能について、これから迎える社会生活を念頭に置き、社会習慣への適応と被服材料の性能や被服構成との関わりの深さについて考える。
	11	衣服計画を立てる (衣生活と環境)	・資源の有効活用の観点から、購入・廃棄まで考えた被服計画の重要性を理解する。
	12	縫製の基礎	・基礎縫製（手縫いの基礎）
後期 期末	1	・自分らしい人生をつくる 家族・家庭と法律 青年期の課題とは	・家族に関する法律、家族が社会制度として存在することの意味などについて関心を持って学ぶ。
	2	・経済生活を営む 消費生活	・経済的自立について考え理解する。
	3	・生活を設計する	・消費生活について考え理解する。 ・生涯を見通す。

評価の割合	考查点 6 0 % 観点別 4 0 %			
考查の実施	前期期末・後期期末 評価は 4 回（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末）			
観点別の評価	主な評価内容	評 価 の 観 点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む意欲
	1 授業態度		○	○
	2 課題提出	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	・人の一生と家族、家庭及び衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 ・基礎縫製や調理実習などの作業では、集団での自己を理解し、互いに協力して仕事を進め、真剣な態度で実習に取り組むようにする。			

【教科情報】

情報 I

履 修 学 科	普通科，美術・デザイン科
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	最新 情報 I 日本文教出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4 5 6	第 1 章 1 節 情報の特性 2 節 メディアの特性 3 節 問題解決の考え方 4 節 法の重要性と意義—知的財産権 5 節 法の重要性と意義—個人情報 6 節 情報社会と情報セキュリティ 7 節 情報技術の発展による生活の変化 8 節 情報技術の発展による社会の変化	・情報、メディアの特性を考える。 ・問題解決の考え方を身につける ・著作権侵害について考える。 ・個人情報について考える。 ・サイバー犯罪について考える。 ・ソーシャルメディアの適切な活用法を身につける。 ・情報技術の発展と社会の変化を考える。 ----- ・PC、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの基本操作 ・プログラミングについて
		第 2 章 1 節 メディアとコミュニケーション 2 節 情報のデジタル化 3 節 情報デザイン	・メディアの発達、コミュニケーションの形態や特性を理解する。 ・情報機器のパーソナル化とソーシャルメディアの関係性を理解する。 ・アナログとデジタルの違い、2 進法と情報の単位との関係を理解する。 ・コンピュータによる情報の表現のしくみを理解する。 ・情報デザインの考え方を知る。 ・情報デザインによる問題解決のプロセスを理解する。 ----- ・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの基本操作 ・プログラミング基礎
		第 3 章 1 節 コンピュータのしくみ 2 節 アルゴリズムとプログラム 3 節 モデル化とシミュレーション	・コンピュータの基本的な構成を理解する。 ・CPU による演算のしくみを理解する。 ・アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る ・変数、データ型、演算子、関数などプログラムを構成する要素を確認する。 ・配列など、プログラミングでデータを効率よく利用する方法を理解する。 ・グループ分けプログラムの作成手順を見ながらプログラミングの方法を理解する。 ・モデル化とシミュレーションの考え方を理解する。 ・プログラミングによりコンピュータを用いてシミュレーションをする。 ----- ・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用 ・プログラミングの基礎と演習
前 期 期 末	7 8 9		
後 期 中 間	10 11 12		

後 期 期 末	1	第4章 ネットワークとセキュリティ	・コンピュータネットワークの構成を 理解する。 ・データ伝送のしくみとプロトコルの役割を理解する。 ・暗号化などの情報セキュリティを高める方法について理解する。 ・データの活用が問題解決に役立つことを踏まえ、データ収集の方法を理解する。 ・数値データ、テキストデータの分析方法を理解する。 ・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用 ・プログラミング演習
	2	1 節 情報通信ネットワークのしくみ	
	3	2 節 情報システムとデータベース	
	3	3 節 データの活用	

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解し，技能を身につけているとともに，情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。
【評価場面】			
授業中の発言・観察	○	○	○
グループ協議		○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	
実技テスト (年2回)	○	○	
定期考査 (年2回)	○	○	

【教養】

未来創造応用

(CG デザイン領域)

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・オリエンテーション	・CG・デザインの概念を理解する。 ・CG・デザインの仕事の広がりを理解する。 ・PC の基本操作を理解する。
	5	・CG・デザインとは何か	
	6	・職業理解 ・PC、デザインツールの基本操作 ・デザインツールを知る ・まとめ・レポート	
前期 期末	7	・デザイン概論	・デザインの基本的なルールを学習する。 ・実際にデザイナーが使用するツールを使ってデザインプロセスを体験する。
	8	・CG・デザインの作品鑑賞	
	9	・Illustrator を使った制作実習 ・職業理解 ・まとめ・レポート	
後期 中間	10	・CG・デザインの作品鑑賞	・実際にデザイナーが使用するツールを使ってデザインプロセスを体験する。 ・アニメーションの基本原理を理解し、どのように使われているかを学ぶ。
	11	・Illustrator を使った制作実習	
	12	・アニメーションについて ・職業理解	
後期 期末	1	・アニメーション制作実習	・実際にアニメーション制作を体験する。 ・3DCG ソフトを使ったモデリングを体験する。 ・CG・デザインの分野がテクノロジーと結びつき、現代においてどのような表現ができるかについて考える。
	2	・3DCG 制作体験	
	3	・CG・デザインとテクノロジー ・職業理解 ・まとめ・レポート	

評価の割合	各観点を平均する			
考査の実施	定期考査期間には実施しない			
評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度		○	○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
留意事項				

【家庭科】

食物探求

履修学科	普通科（未来創造コース）
履修学年	第1学年 2学年 3学年
履修形態	選択
履修単位	2単位
教科書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	オリエンテーション	・「食」に関する学びやそこからつながる職業について学習する授業であることを理解する。 ・食物に含まれる栄養素の種類と働きについての知識を習得する。
	5	食に関する仕事に必要な知識	
	6	栄養学とは	
前期 期末	7	食に関する仕事・資格	・「食」に関する仕事や資格にはどのようなものがあるのかを理解する。 ・調理をする際に使用する材料や道具、下準備などの基本的なことを理解し、実習に取り組む。
	8	食に関する職業理解	
	9	食品衛生・実習	
後期 中間	10	地元の食についての学び （フードマイレージ・郷土料理・農業）	・日本をはじめ、世界の食べ物の歴史と文化を知る。 ・乳幼児から高齢期まで、各ライフステージ毎の体の状態を理解し、その時に必要な栄養の特徴、食生活上の留意点などを知り、実習などを通して理解を深める。 ・具体的な職業について理解を深める。
	11	アレルギー対応食品	
	12	食に関わる仕事（サービス・店舗）	
後期 期末	1	調理の技術（調理実習）	・調理の技術を習得する。 ・食品販売の際の陳列や接客の仕方を学び、実践・体験をする。
	2		
	3	食事環境の整備（コーディネート・花）	

評価の割合	考査70% 観点別30%			
考査の実施	授業の中で実施（2回） 評価（1年生：前期末・後期中・後期末）……………3回 （2年生：前期中・前期末・後期中・後期末）…4回 （3年生：前期中・前期末・後期末）……………3回			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 授業態度		○	○
	2 課題提出	○	○	○
	3 発表・実技	○	○	
留意事項				

【教養】

未来創造応用 A

(公務員領域)

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期	4	・オリエンテーション（授業内容・職業観等） ・公務員とは何か？ ・公務員概要（１）－警察官－ ・公務員概要（２）－消防士－ ・施設見学（１）－警察署－ ・公務員概要（３）－陸上自衛隊－ ・グループワーク「裁判員について」	・警察官と消防士の仕事内容や組織について理解する。 ・警察官と消防士の仕事内容や組織について整理し、発表することができる。 ・他の意見を取り入れて、自己の学習について振り返り、調整することができる。 ・陸上自衛隊の仕事内容や組織について理解する。 ・陸上自衛隊の仕事内容や組織について理解し、発表することができる。 ・他の意見を取り入れて、自己の学習について振り返り、調整することができる。
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	9		
後期中間	10	・公務員概要（４）－海上自衛隊－ ・公務員概要（５）－航空自衛隊－ ・公務員試験過去問題 ・公務員概要（６）－行政－ ・グループワーク「裁判員について」	・海上自衛隊、航空自衛隊、市・県の組織や仕事内容、運営を理解する。 ・それぞれの自衛隊の特色と相違について整理し、発表することができる。 ・実際に出题される公務員試験の内容を理解する。 ・他の意見を取り入れて、自己の学習について振り返り、調整することができる。
	11		
	12		
後期末	1	・公務員概要（７）－事務－ ・グループワーク「裁判員について」 ・各種公務員のまとめ	・市や県の運営や地域との関係性について理解する。 ・市や県の運営や地域との関係性について整理し、発表することができる。 ・この項目における自身の学習を振り返り、公務員や地域の問題点について新たな考えを見いだそうとしている。
	2		
	3		

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	公務員の仕事内容や組織について理解し、公務員の仕事がどのように地域に貢献しているのかを理解することができる。	公務員の仕事内容から地域との関係性や問題点を理解し、発表しながら、他のグループの意見を聞くことで多面的・多角的に考察することができる。	これまでの学習内容を踏まえて今後の公務員の問題点を解決しようとしている。
考查の実施	授業の中で実施（年３回）		
【評価方法】			
授業態度		○	○
発表内容	○	○	○
小レポート	○	○	○
小テスト	○	○	
留意事項	・項目の内容は前後することがあります。		

【教養】

未来創造応用 A

(健康スポーツ領域)

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	○オリエンテーション ・各領域説明・選択	・スポーツに関わる職業・資格について知る
	5	○グループワーク フューチャートーク	・メンタルトレーニングの知識を理解する。
	6	・スポーツに関する職業について ○メンタルトレーニング論	
	7	○スポーツ系学校見学 ・体育・スポーツ系大学専門学校の見学	・スポーツ系専門学校を訪問し、学校の特色などを理解する
	8	○スポーツ栄養について	・様々なスポーツ関係の大学・専門学校などの特色や内容を理解する。
	9	○熱中症対策について	・スポーツにおける食事や栄養の大切さを学ぶ。
	9	○応急処置・救急救命 ・評価（筆記試験）	・応急手当の知識を理解し、心肺蘇生法やAEDの使用の仕方などを学ぶ。
	10	○テーピング(座学・実技・実技試験)	・テーピングの知識を理解し、技術を習得する。
	11	○スポーツ系学校見学 ・体育・スポーツ系大学専門学校を説明会	・スポーツにおけるトレーニングの知識を理解し、実際にトレーニング方法を学ぶ。
後期 中間	11	○体幹トレーニング	・人間の体の仕組みや筋肉の動かし方について学び体幹トレーニングについて知識や技術を学ぶ。
	12	○ダンスエクササイズ	・トレーニングについての知識を学び、体幹トレーニングの実践
	12	○健康スポーツについて	
後期 期末	1	○健康福祉体験	・福祉に関する職業、仕事内容を知る。
	2	・評価（筆記試験）について	
	3	・1年間の反省	
	3		

評価の割合	各観点を平均する			
考查の実施	定期考查期間には実施しない			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度		○	○
	2 課題提出	○	○	○
	3 実技・小テスト	○	○	
留意事項				

【教養】

未来創造応用 A

(ビジネス領域)

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・ 社会人としての心構え ・ ビジネスマナー	・ 社会人として活躍するための心がけを学ぶ ・ マナーの実践するために必要な知識を得る
	5		
	6		
前期 期末	7	・ ビジネスキル ・ 自分らしい働き方	・ 仕事で良い成果を上げるための具体的なスキルを学ぶ ・ 世の中にどんな仕事があるのか調べる ・ 他人から見た自分を知り、自分の可能性に気付く
	8		
	9		
後期 中間	10	・ ビジネス関連知識 ・ 自分の性格	・ ビジネスの場で活かせる企業に関する知識を学ぶ ・ 自分の性格を分析し、客観的にどんな仕事ができるのか、似合うのか考える。
	11		
	12		
後期 期末	1	・ 就職活動	・ 社会人になるための第一歩である就職活動について考える
	2		
	3		

評価の割合	各観点を平均する。			
考査の実施	定期考査期間には実施しない			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度		○	
	2 出席状況			○
	3 課題提出		○	○
	3 レポート・小テスト	○	○	
留意事項				

【教養】

未来創造応用 A

(IT 情報)

履 修 学 科	普通科（未来創造コース）
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期	4	・メモ帳でホームページを作ってみよう ～HTML の基礎～ ・エクセルのマクロを使って簡単なゲームを作ってみよう ～VBA プログラミングの基礎～	・プログラミングの入門として HTML の基礎を学習し、オリジナルのホームページを作成することにより、プログラマー、WEB デザイナー、情報の発信におけるモラルやマナーを身に付ける。 ・身近な表計算ソフト「エクセル」を使って基本的なプログラミングを学習し、アルゴリズムなど論理的な思考を身に付けるとともに、社会人として仕事におけるエクセルの効率的な使い方、ゲームクリエイターやアプリケーション開発について体験する。
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
後期中間	10	・HTML を使って商品紹介ホームページを作成しよう ～情報発信の基礎～	・前期で作成したアプリケーションを紹介するホームページを作成することにより、商品分析、広告宣伝業務について触れ、情報を発信する際の工夫の仕方を学習する。
	11		
	12		
後期期末	1	・パワーポイントを使って気になるニュースを解説しよう ～プレゼンテーションの基礎～	・プレゼンテーションソフト「パワーポイント」を利用し、情報をいかに相手にわかりやすく伝えるか、パワーポイントの活用法を学習し、それを発表することでプレゼン能力の向上を図る。
	2		
	3		

評価の割合	各観点を平均する			
考査の実施	定期考査期間には実施しない			
平常点の評価 (10点)	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断 表現	主体的に取り組む 態度
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	
	4 レポート・小テスト	○	○	○
留意事項	プログラミングは基本的にアルファベットを使用します。			

令和 6 年度

普通科

【保育コース】

シラバス

(令和 6 年度 入学生以降)

第 1 学年

【国語科】

現代の国語

履 修 学 科	全科共通
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	現代の国語 数研出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	○読むと書く	○言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。
	5	●問題を提起する	○文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。
	6	◎言語技術の実践 1	●文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。 ●自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。 ◎情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使う。 ◎目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。 ◎読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。
前 期 期 末	7	○解釈を述べる事実	○比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使う。
	8	●意見を述べる無痛	○目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりする。
	9	◎言語技術の実践 2	●引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使う。 ●読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。 ◎話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使う。 ◎話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫する。
後 期 中 間	10	○新しい視点 1	○実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	11	●新しい視点 2	○目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。
		◎言語技術の実践 3	●主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。 ●自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫する。 ◎推論の仕方を理解し使う。 ◎論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりする。 ◎論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫する。
後 期 期 末	12.	○環境と科学	○個別の情報と一般化された情報との関係について理解することができる。
	1	●実用の文章	○目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する。
	2 3		●実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ●読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。

考査の実施	年 4 回実施 （前期中間・前期期末・後期中間・学年末）			
	主な評価内容		評価の観点	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 課題の提出	○	○	○
留意事項	使用する補助教材 ○漢字：「漢字ボックス 漢字検定級別対応（5級～2級）」（浜島書店）			

【国語科】

言語文化

履修学科	全科共通
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	言語文化 数研出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	○〈近現代編〉近代小説(一)	○文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 ○作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ●言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。
	5	●〈近現代編〉近代小説(一) 探究の扉	●作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。
	6	◎〈古文編〉説話	◎文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。
前 期 期 末	7	○〈漢文編〉入門	○我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ○作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。
	8	●〈古文編〉随筆(二)	●古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。
	9	◎〈古文編〉和歌	●自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 ◎作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。
後 期 中 間	10	○〈近現代編〉詩歌	○我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	11	●〈漢文編〉故事 ◎〈古文編〉軍記物語	○自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。 ●我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ●作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する ◎作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。
後 期 期 末	12.	○〈漢文編〉思想	○我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ○作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。
	1	●〈近現代編〉戦争小説	●我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	2		●作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。
	3		

考查の実施	年4回実施（前期中間・前期期末・後期中間・学年末）			
	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 課題作品の提出	○	○	○
留意事項	使用する補助教材 ○漢字：「漢字ボックス 漢字検定級別対応（5級～2級）」（浜島書店）			

【地歴公民科】

公共

履修学科	普通科，商業科，美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「新公共」（第一学習社）

学期・月		項目	学習内容（ねらい）・評価の観点
前期 中間	4	第1編 公共の扉	・人間としての在り方生き方について理解する ・公共的な空間と人間、個人の尊厳や自主・自立に着目して考える。 ・公共的な空間の諸課題を主体的に解決しようとする。
	5	第1章 公共的な空間をつくる私たち	
	6	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	
前期 期末	7	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解する。 ・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら考察する。 ・政治参加・主権・安全保障などについて諸課題を主体的に解決しようとしている。
	8	第2章 政治的な主体となる私たち	
	9	主題4 政治参加と公正な世論形成 主題5 国際社会と国家主権 主題6 日本の安全保障と防衛	
後期 中間	10	主題7 国際社会の変化と日本の役割	・現実社会の諸問題に関わる主体として必要な情報を身に付ける。 ・社会参画を視野に入れ、主題解決に向け協働・考察・構想して表現する。 ・グローバル化した現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	11	第3章 経済的な主体となる私たち	
	12	主題13 経済のグローバル化 ⑦地球環境問題 ⑧資源・エネルギー問題 ⑨国際社会のこれから	
後期 期末	1	主題8 雇用と労働問題	・経済の基本的なしくみと特徴を理解する。 ・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら考察する。 ・雇用問題・職業観・市場機能について主体的に学び考えようとしている。
	2	主題9 社会の変化と職業観	
	3	主題10 市場経済の機能と限界	

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に，国家及び社会の担い手として，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
【評価方法】			
授業態度		○	○
発問評価	○	○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	

ノート提出	○	○	○
定期考査（年4回）	○	○	
留意事項	※各コース担当で進度調整を行う場合もある。		

【数学科】

数学 I

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	4単位
教科書	新編 数学 I (数研出版)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	第1章 数と式 第1節 式の計算 1 多項式の加法と減法 2 乗法 3 因数分解	・ 式を目的に応じて1つの文字に着目して整理するなどして既に学習した計算の方法と関連付けて多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。
	5	第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算	・ 数の体系についての理解を深め、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。
	6	第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式	・ 不等式の解の意味や性質を理解し、1次不等式を解く方法を考察し、具体的な課題の解決に1次不等式を活用する力を培う。
前期期末	7	第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件	・ 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。
	8	3 逆・対偶・裏 4 命題と証明	・ 2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解し、2次関数の式とグラフの関係について、多面的に考察する。
	9	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ	
後期中間	10	第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	・ 2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。
	11	第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式	・ 2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。
		第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係	・ 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。
学年末	12	3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用	・ 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決する力などを培う。
	1	4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理・余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用	
	2	第5章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間の関係 6 仮説検定の考え方	
	3	課題学習	・ データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な手法などを選択し、分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力などを養う。

考查の実施	前期中間・前期期末・後期中間・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【理科】

化学基礎

履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	3単位
教科書	「新編化学基礎」(東京書籍)
副教材	「ニューサポート新編化学基礎」(東京書籍)

履修学科		普通科(未来創造・保育)	
学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	1編 化学と人間生活 第1章 化学とは何か	- 物質の分離・精製や元素の確認などの実験を通して、単体・化合物及び混合物について理解する。 - 粒子の熱運動と温度及び物質の状態変化との関係について理解する。 - 原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解する。
	5	第2章 物質の成分と構成元素	
	6	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表	
前期 期末	7	2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	- イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。また、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。 - 共有結合を電子配置と関連づけて理解する。また、分子からなる物質の性質を理解する。 - 金属結合及び金属の性質を理解する。
	8	2節 分子と共有結合	
	9	3節 金属と金属結合	
	9	4節 化学結合と物質の分類	
後期 中間	10	3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式	- 物質と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。 - 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 - 酸と塩基の性質を理解する。また、酸・塩基の強弱と電離度の大小についても理解する。
	11	2章 酸と塩基	
	12	2章 酸と塩基	
後期 期末	1	3章 酸化還元反応	- 水素イオン濃度とpHの関係を理解する。 - 中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 - 酸化と還元が電子の授受によることを理解する。 - 酸化還元反応と日常生活や社会とのかかわりについて理解する。
	2	3章 酸化還元反応	
	3	終章 化学が拓く世界	

評価の割合	知識・技能(考査90% 平常10%) 思考力・判断力・表現力(考査60% 平常40%) 主体的に学びに向かう態度(平常100%)			
考査の実施	年4回実施			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「ニューサポート新編化学基礎」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。			

【保健体育科】

体 育

履修学科	普通科・商業科・美術デザイン科
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	アクティブスポーツ 2023

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期	4	体づくり運動・集団行動	・2年次の「授業の流れ・諸注意について」確認する。 ・集団の約束や決まりを守り、機敏的確に行動することを身に付ける。 ・体力・運動能力の現状を確かめ、現在の自分の体力を知り、今後の授業に活かす。 ・身体の柔軟性と調整能力を高め、様々な身体表現ができるようにさせる。
	5	スポーツテスト、陸上(走・跳・投)	
	6	ダンス	
	7	バレーボール	・個々に応じた目標設定をする。個人技能をもとに、集団技能を習得し、ゲームに活かす。(パス、レシーブ、アタック、サーブの連携技術習得) ・プレー中の安全に配慮しながら、状況に応じた技能を発揮できるようにさせる。
	8	ソフトボール	
	9		
後期中間	10	サッカー	・パスやドリブル・ボールコントロールの技術を応用し、味方が作り出した空間に走りこんだシュート動作を身に付ける。 ・ラケット操作を身に付け、シャトルコックの特性を理解し、基本技能を身に付ける。
	11	バドミントン (体育理論)	
学年末	12	バスケットボール	・接触プレーの多い球技ゲームを通して、チームの協調性とルールの順守の大切さを学ばせ、協力し合いながら、安全に試合の攻防が展開できるようにさせる。 ・運動やスポーツの効果的な学習の仕方について理解させる。
	1		
	2	体育理論	
	3	(バドミントン)	

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・実技試験の割合は以下の通り。 知・技（実技試験 9 割、実技試験外 1 割） 思・判・表（実技試験 8 割、実技試験外 2 割） 主体的（実技試験外 10 割）			
考査の実施	実技試験による評価			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 実技・考査試験	○	○	
	2 授業態度			○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	運動の必要性を認識し、自らを鍛えるという習慣を身に付け、体力の向上に努力する。年間を通して集団の一員としての在り方を見つめ、進んで取り組む姿勢や改善する能力を養う。また、健康を常に意識しながらスポーツを生涯の友として取り組む姿勢を養う。			

【保健体育科】

保 健

履修学科	普通科、商業科、美術・デザイン科
履修学年	第2学年
履修形態	必修
履修単位	1単位
教科書	高等学校 保健体育 Textbook, Activity

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期	4	第2章 安全な社会生活 第2節 応急手当	・応急手当の重要性を知り，傷病者の観察や応急手当の正しい手順についての理解を深める。
	5		・心肺蘇生法について，正しい手法を理解し，身につけることができるようにする。
	6	第4章 健康を支える環境づくり 第1節 環境・食品と健康	・近年の人間活動による汚染の急増，地球環境問題などについての理解を深める。
	7	第4章 健康を支える環境づくり 第2節 保健・医療制度と機関	・食品による健康被害の種類を知り，このような被害を防止するために行われている施策についての理解を深める。
	8		・わが国で行われている，保健行政について具体的な施策を知るとともに，医療制度の仕組みやサービスについても理解を深める。
後期	9		・医薬品の有効性と危険性の両面について知り，医薬品は正しく使用する必要があることについての理解を深める。
	10	第3章 生涯を通じる健康 第1節 生涯の各段階における健康	・心身ともに大人への過渡期である思春期に起こる心の成長について，男女の意識の違いなども含めて理解を深める。
	11		・受精のメカニズムを知り，妊娠から出産までの過程と，胎児と母体の変化についての理解を深める。
	12	第3章 生涯を通じる健康 第2節 労働と健康	・加齢に伴う心身の変化について知り，壮年期以降の健康課題を知り，高齢社会における取り組みについて理解を深める。
	1		・労働と健康のかかわりについて理解を深める。また，職業の選択に当たって考慮すべきことについて考えることができるようにする。
	2		・労働と健康のかかわりについて理解を深める。また，職業の選択に当たって考慮すべきことについて考えることができるようにする。
	3		・労働者の健康・安全をまもるために，わが国で行われている施策について知るとともに，自らがとるべき対策についても理解を深める。

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期期末・学年末考査			
評価項目	主な評価内容	評 価 の 観 点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 課題提出	○	○	○
留意事項	3 小テスト	○	○	
	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれぞれを支える社会環境づくりが重要留意事項であるということから、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。			

【芸術科】

音楽Ⅰ

履 修 学 科	普通科
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	選択必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	教育芸術社 MOUSA 1

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	・「音楽Ⅰ」学習のためのガイダンス、アンケート ・校歌を中心とした「歌唱」 （日本の歌・イタリアの歌）（練習・テスト）	・これまでの音楽学習歴や、音楽に関する興味関心度などの調査 ・発声を学び、伸びやかに歌う。外国語の歌に触れ、日本語の歌との違いを感じ取る「教科書・CD」
	5	・「器楽」（ピアノを中心とした鍵盤楽器）の基礎学習（練習・テスト）	・鍵盤に慣れる 「星に願いを」他
	6	・クラッピング（リズムアンサンブル）練習および発表（テスト） ・基礎的な楽典および西洋音楽の歴史など①	・リズムを理解し、コミュニケーションと表現力を学ぶ ・発表時のマナーを学び、他の演奏を聴き合いながら表現の違いを感じ取る。 ・教科書、ワークなど
前 期 期 末	7	・ピアノ練習および実技テスト	・鍵盤に慣れるとともに音階や曲の形式について学び、読譜の基礎を確認する
	8	・西洋音楽の歴史（バロック・古典派）	・ワークブックを使用し、楽典の基礎を学ぶ
	9	・ミュージカル映画鑑賞（感想文提出） ・基礎的な楽典および西洋音楽の歴史など②	・西洋音楽の歴史に触れる、作曲家、作品について学ぶ（CD 鑑賞など）
後 期 中 間	10	・ドイツリートに触れる「歌唱」実技テスト	・ミュージカルに触れ、制作の舞台裏や表現力等を学ぶ
	11	・ミュージックベル合奏 ・基礎的な楽典および西洋音楽の歴史③ ・ピアノ課題（練習） 日本の伝統芸能について①	・外国語の歌（ドイツ語）に触れ、文学作品との関連を知る ・合奏を通して互いに聴き合いながら曲を仕上げ、表現することを学ぶ ・日本の伝統芸能の成り立ちなどを学ぶ
学 年 末	12	・ミュージックベル合奏の練習および発表	・発表時のマナーを学び、他の演奏を聴き合いながら表現の違いを感じ取る。
	1	・ピアノ練習およびテスト ・日本の伝統芸能について② ・CD,DVD、動画 鑑賞	・ワークブックを使用し、楽典の基礎を学ぶ ・ロマン派の時代背景や作曲家、作品について学ぶ（CD 鑑賞等）
	2		・日本の伝統芸能の成り立ちなどを学ぶ
	3		

考査の実施	年 4 回			
評価の割合	課題評価（考査含む）と平常点を総合的に評価する。			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 出欠状況			○
	3 実技課題	○	○	○
	4 提出課題等	○	○	○
留意事項	5 定期考査	○	○	
	音楽経験（ピアノを習っている、習ったことがない）などで評価が大きく左右されないように、形勢的評価での評価とします。（今の自分のレベルから上達した部分を評価します） 実技の取り組み具合が大きくかわります。 保育コースは検定に関連した課題などにも取り組みます。			

【外国語科】

英語

コミュニケーション I

履修学科	普通科（保育）
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	4単位
教科書	All aboard! English Communication I (東京書籍)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	中学既習事項の確認・復習、高校英語への導入 Warm-up	教材：「英単語ターゲット 1200」 「書き込み式ノート英単語ターゲット 1200 Workbook 1」 「All aboard! ワークブック」 [題材内容] 世界の朝食を紹介するスピーチを通して、 その特徴や相違を学習する。 [言語材料] 過去形 [題材内容] オーストラリアの珍しい野生動物クオッカ と観光のルールについて学習する。 [言語材料] 進行形：〈be 動詞＋動詞の-ing 形〉
	5	Pre-Lesson 1 My Name Is Ito Neko	
	6	Pre-Lesson 2 I Like Junk Food!	
	6	Lesson 1 Breakfast around the World	
前期 期末		Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	[題材内容] 被災地を運行する列車運転士のスピーチを 通して、職業の意義について考える。 [言語材料] 助動詞：can, will [題材内容] 海外の観光地について書かれたメールを通 して、その魅力について学習する。 [言語材料] to 不定詞：〈to＋動詞の原形〉 [題材内容] 高校のユニークな部活動を通して、今好き なことと将来の夢について考える。 [言語材料] 動名詞：〈動詞の-ing 形〉
	7	Lesson 3 A Train Driver in Sanriku	
	8	Lesson 4 A Miracle Mirror	
	9	Lesson 5 Learning from the Sea	
後期 中間		Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period	[題材内容] 江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についての スピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性につい て考える。 [言語材料] 受け身：〈be 動詞＋過去分詞〉 [題材内容] アンネ・フランクの生活と日記について紹 介する授業を通して、生きることの意味について考え る。 [言語材料] 比較表現：〈-er〉〈the -est〉〈as＋原級＋ as〉 [題材内容] ロボットカフェを紹介する実況中継を通し て、ロボットの可能性について考える。 [言語材料] 現在完了形：〈have [has]＋過去分詞〉
	10	Lesson 7 A Diary of Hope	
	11	Lesson 8 A Door to a New Life	

後 期 期 末	12	Lesson 9 Fighting Plastic Pollution Lesson 10 Pigs from across the Sea	[題材内容] プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。 [言語材料] 名詞を後ろから説明する分詞 [題材内容] 第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。 [言語材料] 関係代名詞：who, which
	1		
	2		
	3		

考查の実施		前期中間考查・前期期末考查・後期中間考查・学年末考查		
評価方法		主な評価内容		
観点別評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考查	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動			○
留意事項		・英語4技能を意識した学習内容を実施する。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。		

【家庭科】

家庭基礎

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・食生活をつくる 食生活の現状と課題 栄養素と食品	・食事の役割や栄養素の種類と機能、食生活の課題について理解する。
	5	食品の保存 調理実習	・調理の安全や衛生について考える。
	6	・住生活をつくる 住まいの計画 安全で衛生的な住まい	・調理の基礎を学び、調理法を理解する。 ・食の安全や衛生、配膳や食事のマナーを理解する。 ・ホームプロジェクト ・ライフスタイルに応じた住空間の構成を理解する。 ・安全な住まいについて考える。
前期 期末	7	・子どもと共に育つ 親の役割	・乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育について理解する。
	8	子どもの成長のようすと生活	
	9	・高齢社会を生きる ・共に生き共に支える	・高齢社会について理解する。 ・家族や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活していくことの重要性について理解する。
後期 中間	10	・衣生活をつくる 衣服の機能を考える (衣服材料を知る)	・被服の機能について、これから迎える社会生活を念頭に置き、社会習慣への適応と被服材料の性能や被服構成との関わりの深さについて考える。
	11	衣服計画を立てる (衣生活と環境)	・資源の有効活用の観点から、購入・廃棄まで考えた被服計画の重要性を理解する。
	12	縫製の基礎	・基礎縫製（手縫いの基礎）
後期 期末	1	・自分らしい人生をつくる 家族・家庭と法律 青年期の課題とは	・家族に関する法律、家族が社会制度として存在することの意味などについて関心を持って学ぶ。
	2	・経済生活を営む 消費生活	・経済的自立について考え理解する。
	3	・生活を設計する	・消費生活について考え理解する。 ・生涯を見通す。

評価の割合	考查点 6 0 % 観点別 4 0 %			
考查の実施	前期期末・後期期末 評価は 4 回（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末）			
観点別の評価	主な評価内容	評 価 の 観 点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む意欲
	1 授業態度		○	○
	2 課題提出	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	・人の一生と家族、家庭及び衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 ・基礎縫製や調理実習などの作業では、集団での自己を理解し、互いに協力して仕事を進め、真剣な態度で実習に取り組むようにする。			

【教科情報】

情報 I

履 修 学 科	普通科，美術・デザイン科
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	最新 情報 I 日本文教出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4 5 6	第 1 章 1 節 情報の特性 2 節 メディアの特性 3 節 問題解決の考え方 4 節 法的重要性と意義—知的財産権 5 節 法的重要性と意義—個人情報 6 節 情報社会と情報セキュリティ 7 節 情報技術の発展による生活の変化 8 節 情報技術の発展による社会の変化	・情報、メディアの特性を考える。 ・問題解決の考え方を身につける ・著作権侵害について考える。 ・個人情報について考える。 ・サイバー犯罪について考える。 ・ソーシャルメディアの適切な活用法を身につける。 ・情報技術の発展と社会の変化を考える。 ----- ・PC、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの基本操作 ・プログラミングについて
		第 2 章 1 節 メディアとコミュニケーション 2 節 情報のデジタル化 3 節 情報デザイン	・メディアの発達、コミュニケーションの形態や特性を理解する。 ・情報機器のパーソナル化とソーシャルメディアの関係性を理解する。 ・アナログとデジタルの違い、2 進法と情報の単位との関係を理解する。 ・コンピュータによる情報の表現のしくみを理解する。 ・情報デザインの考え方を知る。 ・情報デザインによる問題解決のプロセスを理解する。 ----- ・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの基本操作 ・プログラミング基礎
		第 3 章 1 節 コンピュータのしくみ 2 節 アルゴリズムとプログラム 3 節 モデル化とシミュレーション	・コンピュータの基本的な構成を理解する。 ・CPU による演算のしくみを理解する。 ・アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る ・変数、データ型、演算子、関数などプログラムを構成する要素を確認する。 ・配列など、プログラミングでデータを効率よく利用する方法を理解する。 ・グループ分けプログラムの作成手順を見ながらプログラミングの方法を理解する。 ・モデル化とシミュレーションの考え方を理解する。 ・プログラミングによりコンピュータを用いてシミュレーションをする。 ----- ・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用 ・プログラミングの基礎と演習

後 期 期 末	1	第4章 ネットワークとセキュリティ	・コンピュータネットワークの構成を 理解する。 ・データ伝送のしくみとプロトコルの役割を理解する。 ・暗号化などの情報セキュリティを高める方法について理解する。 ・データの活用が問題解決に役立つことを踏まえ、データ収集の方法を理解する。 ・数値データ、テキストデータの分析方法を理解する。 ・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用 ・プログラミング演習
	2	1 節 情報通信ネットワークのしくみ	
	3	2 節 情報システムとデータベース	
	3	3 節 データの活用	

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解し，技能を身につけているとともに，情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。
【評価場面】			
授業中の発言・観察	○	○	○
グループ協議		○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	
実技テスト (年2回)	○	○	
定期考査 (年2回)	○	○	

【家庭科】

コミュニケーション保育

履修学科	普通科・保育コース
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	1単位
教科書	なし

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・コミュニケーションとは ・子ども文化とは何だろう	・コミュニケーションの必要性について学ぶ。
	5	・子どもと遊び	・子どものための文化活動、児童文化財、児童文化施設などの重要性について理解する。
	6	手遊び わらべうた遊び 言葉遊び ・道具の正しい使い方① ・壁面構成	・子どもの遊びの重要性及び遊びの種類と発達の関りについて理解する。
前期 期末	7	・子どもと文学 絵本	・絵本の意義と特徴について学ぶ。
	8	・伝統文化 折り紙の意義	・折り図を読み取る。
	9	・道具の正しい使い方② ・保育検定4級 ①	
後期 中間	10	・子どもと文学 紙芝居	・実際に素話や絵本の読み聞かせを行い、実践力を養う。
	11	・子どもと表現活動 身体表現（リトミック）	・子どもの表現活動の意義とそれを支える児童文化財の重要性について学ぶ。
	12		
後期 期末	1	・児童文化のための施設	・子どもの健全な遊びや表現活動を支える代表的な施設を取り上げ、その意義と活用について理解する。
	2	・子どもと年中行事	・年中行事について理解し、それに関わる行事の由来や意味を学ぶ。
	3	・保育検定4級 ②	

評価の割合	考査60% 観点別40%			
考査の実施	前期期末・後期期末 評価は4回（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末）			
観点別の評価	主な評価内容	評 価 の 観 点		
		知識・技能	思考力・判断力 表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 授業への取り組み	○	○	
	2 課題・発表	○	○	○
留意事項	3 検定		○	○
	保育検定4級 言語表現・家庭看護・造形表現・音楽リズム			

令和 6 年度

普通科

【進学コース】

シラバス

(令和 6 年度 入学生以降)

第 1 学年

【国語科】

現代の国語

履 修 学 科	全科共通
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	現代の国語 数研出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	○読むと書く	○言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。
	5	●問題を提起する	○文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。
	6	◎言語技術の実践 1	●文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。 ●自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。 ◎情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使う。 ◎目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。 ◎読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。
前 期 期 末	7	○解釈を述べる事実	○比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使う。
	8	●意見を述べる無痛	○目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりする。
	9	◎言語技術の実践 2	●引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使う。 ●読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。 ◎話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使う。 ◎話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫する。
後 期 中 間	10	○新しい視点 1	○実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	11	●新しい視点 2	○目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。
		◎言語技術の実践 3	●主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。 ●自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫する。 ◎推論の仕方を理解し使う。 ◎論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりする。 ◎論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫する。
後 期 期 末	12.	○環境と科学	○個別の情報と一般化された情報との関係について理解することができる。
	1	●実用の文章	○目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する。
	2 3		●実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ●読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。

考査の実施	年 4 回実施 （前期中間・前期期末・後期中間・学年末）			
	主な評価内容		評価の観点	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 課題の提出	○	○	○
留意事項	使用する補助教材 ○漢字：「漢字ボックス 漢字検定級別対応（5級～2級）」（浜島書店）			

【国語科】

言語文化

履修学科	全科共通
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	言語文化 数研出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	○〈近現代編〉近代小説(一)	○文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 ○作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ●言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。 ●作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 ◎文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。
	5	●〈近現代編〉近代小説(一) 探究の扉	
	6	◎〈古文編〉説話	
前 期 期 末	7	○〈漢文編〉入門	○我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ○作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。 ●古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 ●自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 ◎作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。
	8	●〈古文編〉随筆(二)	
	9	◎〈古文編〉和歌	
後 期 中 間	10	○〈近現代編〉詩歌	○我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ○自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。 ●我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ●作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 ◎作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。
	11	●〈漢文編〉故事	
		◎〈古文編〉軍記物語	
後 期 期 末	12.	○〈漢文編〉思想	○我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ○作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ●我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ●作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。
	1	●〈近現代編〉戦争小説	
	2		
	3		

考査の実施	年4回実施（前期中間・前期期末・後期中間・学年末）			
	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 課題作品の提出	○	○	○
留意事項	使用する補助教材 ○漢字：「漢字ボックス 漢字検定級別対応（5級～2級）」（浜島書店）			

【地歴公民科】

公共

履修学科	普通科，商業科，美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「新公共」（第一学習社）

学期・月		項目	学習内容（ねらい）・評価の観点
前期 中間	4	第1編 公共の扉	・人間としての在り方生き方について理解する ・公共的な空間と人間、個人の尊厳や自主・自立に着目して考える。 ・公共的な空間の諸課題を主体的に解決しようとする。
	5	第1章 公共的な空間をつくる私たち	
	6	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	
前期 期末	7	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解する。 ・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら考察する。 ・政治参加・主権・安全保障などについて諸課題を主体的に解決しようとしている。
	8	第2章 政治的な主体となる私たち	
	9	主題4 政治参加と公正な世論形成 主題5 国際社会と国家主権 主題6 日本の安全保障と防衛	
後期 中間	10	主題7 国際社会の変化と日本の役割	・現実社会の諸問題に関わる主体として必要な情報を身に付ける。 ・社会参画を視野に入れ、主題解決に向け協働・考察・構想して表現する。 ・グローバル化した現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	11	第3章 経済的な主体となる私たち	
	12	主題13 経済のグローバル化 ⑦地球環境問題 ⑧資源・エネルギー問題 ⑨国際社会のこれから	
後期 期末	1	主題8 雇用と労働問題	・経済の基本的なしくみと特徴を理解する。 ・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら考察する。 ・雇用問題・職業観・市場機能について主体的に学び考えようとしている。
	2	主題9 社会の変化と職業観	
	3	主題10 市場経済の機能と限界	

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に，国家及び社会の担い手として，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
【評価方法】			
授業態度		○	○
発問評価	○	○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	

ノート提出	○	○	○
定期考査（年4回）	○	○	
留意事項	※各コース担当で進度調整を行う場合もある。		

【数学科】

数学 I

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	4単位
教科書	新編 数学I (数研出版)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	第1章 数と式 第1節 式の計算 1 多項式の加法と減法 2 乗法 3 因数分解	・ 式を目的に応じて1つの文字に着目して整理するなどして既に学習した計算の方法と関連付けて多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。
	5	第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算	・ 数の体系についての理解を深め、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。
	6	第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式	・ 不等式の解の意味や性質を理解し、1次不等式を解く方法を考察し、具体的な課題の解決に1次不等式を活用する力を培う。
前 期 期 末	7	第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件	・ 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。
	8	3 逆・対偶・裏 4 命題と証明 第3章 2次関数	・ 2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解し、2次関数の式とグラフの関係について、多面的に考察する。
	9	第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ	
後 期 中 間	10	第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	・ 2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。
	11	第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式	・ 2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。
		第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係	・ 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。
学 年 末	12	3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用	・ 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決する力などを培う。
	1	4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理・余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用	・ データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な手法などを選択し、分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力などを養う。
	2	第5章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間の関係 6 仮説検定の考え方	
	3	課題学習	

考查の実施	前期中間・前期期末・後期中間・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【数学科】

数学A

履修学科	普通科（進学・看護医療）
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	新編 数学A （数研出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第1章 場合の数と確率	・場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	5	第1節 場合の数	
	6	1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列	
前期 期末	7	4 組合せ	・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	8	第2節 確率	
	9	5 事象と確率	
	10	6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 9 期待値	
後期 中間	11	第2章 図形の性質	・平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	12	第1節 平面図形	
	13	1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理	
学年 末	14	4 円に内接する四角形	・さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を、数学を用いて考察できるような力を培う。
	15	5 円と直線	
	16	6 2つの円	
	17	第3章 数学と人間の活動	
	18	1 約数と倍数	
	19	2 素数と素因数分解 3 最大公約数・最小公倍数 4 整数の割り算 5 ユークリッドの互除法 6 1次不定方程式	

考查の実施	前期中間・前期期末・後期中間・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【理科】

化学基礎

	美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「新編化学基礎」(東京書籍)
副教材	「ニューサポート新編化学基礎」 (東京書籍)

履修学科		普通科(進学・看護医療)	
学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	1編 化学と人間生活 第1章 化学とは何か	- 物質の分離・精製や元素の確認などの実験を通して、単体・化合物及び混合物について理解する。 - 粒子の熱運動と温度及び物質の状態変化との関係について理解する。 - 原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解する。
	5	第2章 物質の成分と構成元素	
	6	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表	
前期 期末	7	2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	- イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。また、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。 - 共有結合を電子配置と関連づけて理解する。また、分子からなる物質の性質を理解する。 - 金属結合及び金属の性質を理解する。
	8	2節 分子と共有結合	
	9	3節 金属と金属結合	
	9	4節 化学結合と物質の分類	
後期 中間	10	3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式	- 物質と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。 - 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 - 酸と塩基の性質を理解する。また、酸・塩基の強弱と電離度の大小についても理解する。
	11	2章 酸と塩基	
	12	2章 酸と塩基	
後期 期末	1	3章 酸化還元反応	- 水素イオン濃度とpHの関係を理解する。 - 中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 - 酸化と還元が電子の授受によることを理解する。 - 酸化還元反応と日常生活や社会とのかかわりについて理解する。
	2	終章 化学が拓く世界	
	3		

評価の割合	知識・技能(考査90% 平常10%) 思考力・判断力・表現力(考査60% 平常40%) 主体的に学びに向かう態度(平常100%)			
考査の実施	年4回実施			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
留意事項	3 小テスト	○	○	
	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「ニューサポート新編化学基礎」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。			

【保健体育科】

体 育

履 修 学 科	普通科、商業科、美術・デザイン科
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	3 単位
教 科 書	アクティブスポーツ 2024

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期	4	体づくり運動・集団行動	・1年間の授業展開を伝えるとともに、体育の授業で目標としている評価のポイントを理解させる。 ・集団行動の中で約束や決まりを守り、機敏的確に行動することを身に付ける。 ・体力を高め目的に適した運動能力を身に付ける。 ・現在の自分の体力を知り、今後の授業に活かす。 ・身体の柔軟性と調整能力を高め、様々な身体表現ができるようにさせる。
	5	スポーツテスト、陸上（走・跳・投）	
	6	ダンス（ラジオ体操）	
	7	バレーボール	・個人技能（パス・レシーブ・サーブ）の基本技能を習得すると共に、集団プレーの在り方を学び、ゲームに活かす工夫をさせる。 ・プレー中の安全に配慮しながら、状況に応じた技能を発揮できるようにさせる。
	8	ソフトボール	
	9		
後 期 中 間	10	剣道(男子)・ダンス(女子)	・武道の精神を理解させ、安定した精神力の育成と武術の向上を目指す。 ・身体表現力を高めることを通して、自己表現力を高め、個性の伸長を目指す ・ラケット操作を身に付け、シャトルコックの特性を理解し、基本技能を身に付ける。
	11	バドミントン	
学 年 末	12	バスケットボール	・接触プレーの多い球技種目を通して、チームの協調性とルールの順守の大切さを学ばせ、協力し合いながら、パスやドリブル・ボールコントロールの基本技術を身に付け、状況に応じた技能を発揮できるようにさせる。 ・スポーツの歴史・文化的特徴や現代のスポーツの特徴を知り、体を動かす楽しさや心地よさを味わう。
	1		
	2	体育理論	
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・実技試験の割合は以下の通り。 知・技（実技試験 9 割、実技試験外 1 割） 思・判・表（実技試験 8 割、実技試験外 2 割） 主体的（実技試験外 10 割）			
考査の実施	実技試験による評価			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 実技・考査試験	○	○	
	2 授業態度			○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	運動の必要性を自覚させ、運動習慣の定着と体力向上に努力する姿勢を身に付けさせる。常に集団の一員としての在り方を考えさせ、進んで取り組む資質や改善する能力を養う。また、周囲の安全に気配りできる視野を育成し、互いを労われるようにする。 健康と安全、周りとの協調性を認識しながら、スポーツを生涯の友として取り組む習慣を育成する。			

【保健体育科】

保 健

履修学科	普通科、商業科、美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	1単位
教科書	高等学校 保健体育 Textbook, Activity

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	第2章 安全な社会生活 第1節 安全な社会づくり	・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や、歩行などの適切な行動が重要であることについての理解を深める。
	5	第1章 現代社会と健康 第1節 健康の考え方	・日本の健康水準が、科学技術や経済の発展に伴って向上してきたこと、病気の傾向が変化してきていることを理解する。
	6		・「ヘルスプロモーション」の定義について理解することができる。
前期期末	7	第1章 現代社会と健康 第2節 現代の感染症とその予防	・感染症を防ぐための対策について、感染の仕組みとともに、正しい知識をもつことができる。
	8	第3節 生活習慣病などの予防と回復	・性感染症の予防について正しく理解することができる。
	9		・生活習慣病の原因と、その予防に関する3つの段階について正しく理解することができる。
後期中間	10	第4節 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	・健康的な食生活のための栄養素の働きや食事摂取基準について、正しく理解をもつことができる。
	11		・がんを早期に発見することの重要性について知り、がんの予防や治療に関する正しい知識をもつことができる。
学年末	12	第5節 精神疾患の予防と回復	・喫煙者本人のみでなく周囲の人への健康影響などについて理解を深め、喫煙に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。
	1		・アルコールの作用や、それに伴う健康障害についての理解を深め、飲酒に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。
	2		・薬物乱用による心身の健康や社会的な影響について、正しく理解することができる。
	3		・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、精神活動が不全になった状態であることについて理解を深める。
			・心と体のつながりを知り、心の健康を保つための方法について正しい知識をもつことができる。

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期期末・学年末考査			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 課題提出	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれぞれを支える社会環境づくりが重要留意事項であるということから、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。			

【芸術科】

音楽Ⅰ

履 修 学 科	普通科
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	選択必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	教育芸術社 MOUSA 1

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	・「音楽Ⅰ」学習のためのガイダンス、アンケート ・校歌を中心とした「歌唱」 （日本の歌・イタリアの歌）（練習・テスト）	・これまでの音楽学習歴や、音楽に関する興味関心度などの調査 ・発声を学び、伸びやかに歌う。外国語の歌に触れ、日本語の歌との違いを感じ取る「教科書・CD」
	5	・「器楽」（ピアノを中心とした鍵盤楽器）の基礎学習（練習・テスト）	・鍵盤に慣れる 「星に願いを」他
	6	・クラIPPING（リズムアンサンブル）練習および発表（テスト） ・基礎的な楽典および西洋音楽の歴史など①	・リズムを理解し、コミュニケーションと表現力を学ぶ ・発表時のマナーを学び、他の演奏を聴き合いながら表現の違いを感じ取る。 ・教科書、ワークなど
前 期 期 末	7	・ピアノ練習および実技テスト	・鍵盤に慣れるとともに音階や曲の形式について学び、読譜の基礎を確認する
	8	・西洋音楽の歴史（バロック・古典派）	・ワークブックを使用し、楽典の基礎を学ぶ
	9	・ミュージカル映画鑑賞（感想文提出） ・基礎的な楽典および西洋音楽の歴史など②	・西洋音楽の歴史に触れる、作曲家、作品について学ぶ（CD 鑑賞など）
後 期 中 間	10	・ドイツリートに触れる「歌唱」実技テスト	・ミュージカルに触れ、制作の舞台裏や表現力等を学ぶ
	11	・ミュージックベル合奏 ・基礎的な楽典および西洋音楽の歴史③ ・ピアノ課題（練習） 日本の伝統芸能について①	・外国語の歌（ドイツ語）に触れ、文学作品との関連を知る ・合奏を通して互いに聴き合いながら曲を仕上げ、表現することを学ぶ ・日本の伝統芸能の成り立ちなどを学ぶ
学 年 末	12	・ミュージックベル合奏の練習および発表	・発表時のマナーを学び、他の演奏を聴き合いながら表現の違いを感じ取る。
	1	・ピアノ練習およびテスト ・日本の伝統芸能について② ・CD,DVD、動画 鑑賞	・ワークブックを使用し、楽典の基礎を学ぶ ・ロマン派の時代背景や作曲家、作品について学ぶ（CD 鑑賞等）
	2		・日本の伝統芸能の成り立ちなどを学ぶ
	3		

考査の実施	年 4 回			
評価の割合	課題評価（考査含む）と平常点を総合的に評価する。			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 出欠状況			○
	3 実技課題	○	○	○
	4 提出課題等	○	○	○
留意事項	5 定期考査	○	○	
	音楽経験（ピアノを習っている、習ったことがない）などで評価が大きく左右されないように、形勢的評価での評価とします。（今の自分のレベルから上達した部分を評価します） 実技の取り組み具合が大きくかわります。 保育コースは検定に関連した課題などにも取り組みます。			

【芸術科】

美術 I

履 修 学 科	普通科
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	選択
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	高校生の美術 I

学期・月		項 目	ねらい・教材等
前 期 中 間	4	美術の学習のガイダンス	・色鉛筆、アクリルガッシュ絵の具などの画材に触れ、 絵画、デザインにおいて美術の大切な要素となる色の特 徴や色の選択、混色、重色を学習する。 ・複数の図法を用い、スケッチを通して描くことに慣れ ながら、形や質感をとらえる力を身につける。
	5	＜色彩と形＞ 色の特徴	
	6	形の特徴	
前 期 期 末	7	＜絵画制作＞	・身近な風景をスケッチし、構図、線遠近法を学習する。 ・絵の具の表現方法を学び、風景画や自画像を制作する。
	8	風景画を描く	
	9		
後 期 中 間	10	＜彫刻制作＞	・彫刻作品に込められた作者の想について考えながら、 彫塑作品に対する鑑賞の能力を養う。 ・作品のテーマやモチーフを考えながら、自然素材の塊 からかたちを掘り出し、彫刻作品を制作する。
	11	塊から掘り出す彫刻	
	12		
後 期 期 末	1	＜デザイン＞ 日本美術	・日本美術の歴史や伝統工芸を学習し、美術文化への鑑 賞する力を養う。 ・造形的なよさや美しさ、目的や条件などを基に美的感 覚をはたらかせながら、生活と密着する現代のデザイ ン事情について学習する。
	2	暮らしの中のデザイン	
	3		

評価の割合	課題評価（考査含む）と観点別評価を総合的に評価する。			
考査の実施	年 2 回実施 前期期末・後期末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
留意事項	5 考査	○	○	

【外国語科】

英語

コミュニケーション I

履修学科	普通科（進学・看護）
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	4単位
教科書	APPLAUSE English Communication I (開隆堂)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間		中学既習事項の確認・復習、高校英語への導入	「APPLAUSE English Communication I Workbook」 「システム英単語 Basic」
	4 5 6	Lesson 1 The Amazing Scenery Lesson 2 The Mysterious History of Chocolate	①世界の絶景の中で、自身の行ってみたい世界遺産など場所についてまとめ、お互いに話し合いをし、発表する。また地球の環境問題についても考える。構文 (SV SVC SVO SV00 SVOC)を理解する。 ②チョコレートの歴史を知り、近年健康食品としてとらえられるようになったチョコレートの奥深さに触れる。構文 SV0 (that 節)、比較級、最上級、as～asを理解する。
前期 期末		Lesson 3 The Secrets of Top Athletes	③世界で活躍するアスリートの取り組み方の違いについて考える。現在完了形、現在完了進行形、過去完了形を理解する。
	7 8 9	Lesson 4 Evolving Airplanes Lesson 5 The Symbol of Peace	④飛行機の歴史と未来の飛行機についてや、飛行機内での楽しみ方など、飛行機にまつわることを理解する。助動詞、受動態、助動詞＋受動態を理解する。 ⑤アフリカのコンゴ共和国とコンゴ民主共和国の違いと共通点を読み取り、平和のためにできることについて考える。動名詞、不定詞、形式主語を理解する。
後期 中間		Lesson 6 Serendipity	⑥偶然の幸運はどのような時にやってくるのか、またどのようにやってくるのか、つかみ取る力について考える。分詞の後置修飾、知覚動詞、使役動詞を理解する。
	10 11	Lesson 7 The Secrets Hidden in Vermeer's Works	⑦オランダ人画家フェルメールの生涯や作品、人気の理由や作風などについて理解する。関係代名詞 (主格)、関係代名詞 (目的格)、関係代名詞 (所有格)を理解する。

後 期 期 末		Lesson 8 Endangered Species in the World	⑧世界の「絶滅危惧種」を守るために、何ができるかを考え、理解を深める。前置詞＋関係代名詞、関係副詞、関係代名詞と関係副詞の非制限用法を理解する。
	12		
	1		
	2	Lesson 9 The Dream of Special Makeup	⑨世界的に有名な特殊メイクアップアーティスト「カズ・ヒロ」さんの生き方を読み取る。条件を表す副詞節、仮定法過去、I wish＋仮定法過去、as if ＋仮定法過去を理解する。
	3		
		Lesson10 Purifying Powder	⑩きれいな水を手に入れる方法、水の重要性について再確認をする。関係代名詞 what、強調構文、分詞構文、SV00 (how to ～) を理解する。

3

考査の実施		前期中間考査・前期期末考査・後期中間考査・学年末考査		
評価方法		主な評価内容		
観点別評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考査	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動			○
留意事項		・英語4技能を意識した学習内容を実施する。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。		

【家庭科】

家庭基礎

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・食生活をつくる 食生活の現状と課題 栄養素と食品	・食事の役割や栄養素の種類と機能、食生活の課題について理解する。
	5	食品の保存 調理実習	・調理の安全や衛生について考える。
	6	・住生活をつくる 住まいの計画 安全で衛生的な住まい	・調理の基礎を学び、調理法を理解する。 ・食の安全や衛生、配膳や食事のマナーを理解する。 ・ホームプロジェクト ・ライフスタイルに応じた住空間の構成を理解する。 ・安全な住まいについて考える。
前期 期末	7	・子どもと共に育つ 親の役割	・乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育について理解する。
	8	子どもの成長のようすと生活	
	9	・高齢社会を生きる ・共に生き共に支える	・高齢社会について理解する。 ・家族や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活していくことの重要性について理解する。
後期 中間	10	・衣生活をつくる 衣服の機能を考える (衣服材料を知る)	・被服の機能について、これから迎える社会生活を念頭に置き、社会習慣への適応と被服材料の性能や被服構成との関わりの深さについて考える。
	11	衣服計画を立てる (衣生活と環境)	・資源の有効活用の観点から、購入・廃棄まで考えた被服計画の重要性を理解する。
	12	縫製の基礎	・基礎縫製（手縫いの基礎）
後期 期末	1	・自分らしい人生をつくる 家族・家庭と法律 青年期の課題とは	・家族に関する法律、家族が社会制度として存在することの意味などについて関心を持って学ぶ。
	2	・経済生活を営む 消費生活	・経済的自立について考え理解する。
	3	・生活を設計する	・消費生活について考え理解する。 ・生涯を見通す。

評価の割合	考查点 6 0 % 観点別 4 0 %			
考查の実施	前期期末・後期期末 評価は 4 回（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末）			
観点別の評価	主な評価内容	評 価 の 観 点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む意欲
	1 授業態度		○	○
	2 課題提出	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	・人の一生と家族、家庭及び衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 ・基礎縫製や調理実習などの作業では、集団での自己を理解し、互いに協力して仕事を進め、真剣な態度で実習に取り組むようにする。			

【教科情報】

情報 I

履 修 学 科	普通科，美術・デザイン科
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	最新 情報 I 日本文教出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4 5 6	第 1 章 1 節 情報の特性 2 節 メディアの特性 3 節 問題解決の考え方 4 節 法の重要性と意義—知的財産権 5 節 法の重要性と意義—個人情報 6 節 情報社会と情報セキュリティ 7 節 情報技術の発展による生活の変化 8 節 情報技術の発展による社会の変化	・情報、メディアの特性を考える。 ・問題解決の考え方を身につける ・著作権侵害について考える。 ・個人情報について考える。 ・サイバー犯罪について考える。 ・ソーシャルメディアの適切な活用法を身につける。 ・情報技術の発展と社会の変化を考える。 ----- ・PC、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの基本操作 ・プログラミングについて
		第 2 章 1 節 メディアとコミュニケーション 2 節 情報のデジタル化 3 節 情報デザイン	・メディアの発達、コミュニケーションの形態や特性を理解する。 ・情報機器のパーソナル化とソーシャルメディアの関係性を理解する。 ・アナログとデジタルの違い、2 進法と情報の単位との関係を理解する。 ・コンピュータによる情報の表現のしくみを理解する。 ・情報デザインの考え方を知る。 ・情報デザインによる問題解決のプロセスを理解する。 ----- ・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの基本操作 ・プログラミング基礎
		第 3 章 1 節 コンピュータのしくみ 2 節 アルゴリズムとプログラム 3 節 モデル化とシミュレーション	・コンピュータの基本的な構成を理解する。 ・CPU による演算のしくみを理解する。 ・アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る ・変数、データ型、演算子、関数などプログラムを構成する要素を確認する。 ・配列など、プログラミングでデータを効率よく利用する方法を理解する。 ・グループ分けプログラムの作成手順を見ながらプログラミングの方法を理解する。 ・モデル化とシミュレーションの考え方を理解する。 ・プログラミングによりコンピュータを用いてシミュレーションをする。 ----- ・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用 ・プログラミングの基礎と演習
前期 期末	7 8 9		
後期 中間	10 11 12		

後 期 期 末	1	第4章 ネットワークとセキュリティ	・コンピュータネットワークの構成を 理解する。 ・データ伝送のしくみとプロトコルの役割を理解する。 ・暗号化などの情報セキュリティを高める方法について理解する。 ・データの活用が問題解決に役立つことを踏まえ、データ収集の方法を理解する。 ・数値データ、テキストデータの分析方法を理解する。 ・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用 ・プログラミング演習
	2	1 節 情報通信ネットワークのしくみ	
	3	2 節 情報システムとデータベース	
	3	3 節 データの活用	

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解し，技能を身につけているとともに，情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。
【評価場面】			
授業中の発言・観察	○	○	○
グループ協議		○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	
実技テスト (年2回)	○	○	
定期考査 (年2回)	○	○	

令和 6 年度

普通科

【看護医療コース】

シラバス

(令和 6 年度 入学生以降)

第 1 学年

【国語科】

現代の国語

履 修 学 科	全科共通
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	現代の国語 数研出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	○読むと書く	○言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。 ○文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。
	5	●問題を提起する	●文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。 ●自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。
	6	◎言語技術の実践 1	◎情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使う。 ◎目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。 ◎読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。
前 期 期 末	7	○解釈を述べる事実	○比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使う。 ○目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりする。
	8	●意見を述べる無痛	●引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使う。 ●読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。
	9	◎言語技術の実践 2	◎話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使う。 ◎話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫する。
後 期 中 間	10	○新しい視点 1	○実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	11	●新しい視点 2	●目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。 ●主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。 ●自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫する。
		◎言語技術の実践 3	◎推論の仕方を理解し使う。 ◎論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりする。 ◎論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫する。
後 期 期 末	12.	○環境と科学	○個別の情報と一般化された情報との関係について理解することができる。 ○目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する。
	1	●実用の文章	●実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	2 3		●読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。

考査の実施	年 4 回実施 （前期中間・前期期末・後期中間・学年末）			
	主な評価内容		評価の観点	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 課題の提出	○	○	○
留意事項	使用する補助教材 ○漢字：「漢字ボックス 漢字検定級別対応（5級～2級）」（浜島書店）			

【国語科】

言語文化

履修学科	全科共通
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	言語文化 数研出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	○〈近現代編〉近代小説(一)	○文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 ○作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ●言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。
	5	●〈近現代編〉近代小説(一) 探究の扉	●作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。
	6	◎〈古文編〉説話	◎文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。
前 期 期 末	7	○〈漢文編〉入門	○我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ○作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。
	8	●〈古文編〉随筆(二)	●古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。
	9	◎〈古文編〉和歌	●自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 ◎作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。
後 期 中 間	10	○〈近現代編〉詩歌	○我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	11	●〈漢文編〉故事	○自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。 ●我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。
		◎〈古文編〉軍記物語	●作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する ◎作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。
後 期 期 末	12.	○〈漢文編〉思想	○我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ○作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。
	1	●〈近現代編〉戦争小説	●我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	2		●作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。
	3		

考查の実施	年4回実施（前期中間・前期期末・後期中間・学年末）			
	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 課題作品の提出	○	○	○
留意事項	使用する補助教材 ○漢字：「漢字ボックス 漢字検定級別対応（5級～2級）」（浜島書店）			

【地歴公民科】

公共

履修学科	普通科，商業科，美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「新公共」（第一学習社）

学期・月		項 目	学習内容（ねらい）・評価の観点
前期 中間	4	第1編 公共の扉	・人間としての在り方生き方について理解する ・公共的な空間と人間、個人の尊厳や自主・自立に着目して考える。 ・公共的な空間の諸課題を主体的に解決しようとする。
	5	第1章 公共的な空間をつくる私たち	
	6	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	
	6		
前期 期末	7	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解する。 ・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら考察する。 ・政治参加・主権・安全保障などについて諸課題を主体的に解決しようとしている。
	8	第2章 政治的な主体となる私たち	
	9	主題4 政治参加と公正な世論形成	
	9	主題5 国際社会と国家主権	
後期 中間	10	主題6 日本の安全保障と防衛	・現実社会の諸問題に関わる主体として必要な情報を身に付ける。 ・社会参画を視野に入れ、主題解決に向け協働・考察・構想して表現する。 ・グローバル化した現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	11	主題7 国際社会の変化と日本の役割	
	12	第3章 経済的な主体となる私たち	
	12	主題13 経済のグローバル化	
後期 期末	1	⑦地球環境問題	・経済の基本的なしくみと特徴を理解する。 ・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら考察する。 ・雇用問題・職業観・市場機能について主体的に学び考えようとしている。
	2	⑧資源・エネルギー問題	
	3	⑨国際社会のこれから	
	3	主題8 雇用と労働問題	
	3	主題9 社会の変化と職業観	
	3	主題10 市場経済の機能と限界	
	3		
	3		

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に，国家及び社会の担い手として，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
【評価方法】			
授業態度		○	○
発問評価	○	○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	

ノート提出	○	○	○
定期考査（年4回）	○	○	
留意事項	※各コース担当で進度調整を行う場合もある。		

【数学科】

数学 I

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	4単位
教科書	新編 数学 I (数研出版)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	第1章 数と式 第1節 式の計算 1 多項式の加法と減法 2 乗法 3 因数分解	・ 式を目的に応じて1つの文字に着目して整理するなどして既に学習した計算の方法と関連付けて多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。
	5	第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算	・ 数の体系についての理解を深め、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。
	6	第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式	・ 不等式の解の意味や性質を理解し、1次不等式を解く方法を考察し、具体的な課題の解決に1次不等式を活用する力を培う。
前 期 期 末	7	第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件	・ 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。
	8	3 逆・対偶・裏 4 命題と証明	・ 2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解し、2次関数の式とグラフの関係について、多面的に考察する。
	9	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ	
後 期 中 間	10	第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	・ 2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。
	11	第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式	・ 2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。
		第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係	・ 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。
学 年 末	12	3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用	・ 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決する力などを培う。
	1	4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理・余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用	・ データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な手法などを選択し、分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力などを養う。
	2	第5章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間の関係 6 仮説検定の考え方	
	3	課題学習	

考查の実施	前期中間・前期期末・後期中間・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【数学科】

数学A

履修学科	普通科（進学・看護医療）
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	新編 数学A （数研出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第1章 場合の数と確率	・場合の数を求めるときの基本的な考え方についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	5	第1節 場合の数	
	6	1 集合の要素の個数 2 場合の数 3 順列	
前期 期末	7	4 組合せ	・確率の意味や基本的な法則についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	8	第2節 確率	
	9	5 事象と確率	
	10	6 確率の基本性質 7 独立な試行と確率 8 条件付き確率 9 期待値	
後期 中間	11	第2章 図形の性質	・平面図形の性質についての理解を深め、それらを事象の考察に活用できるようにする。
	12	第1節 平面図形	
	13	1 三角形の辺の比 2 三角形の外心・内心・重心 3 チェバの定理・メネラウスの定理	
学年 末	14	4 円に内接する四角形	・さまざまな人間の活動の中から、整数を中心とした数学的な要素を見出し、数学の内容の理解を深めると同時に、現実の事象を、数学を用いて考察できるような力を培う。
	15	5 円と直線	
	16	6 2つの円	
	17	第3章 数学と人間の活動	
	18	1 約数と倍数	
	19	2 素数と素因数分解 3 最大公約数・最小公倍数 4 整数の割り算 5 ユークリッドの互除法 6 1次不定方程式	

考查の実施	前期中間・前期期末・後期中間・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【理科】

化学基礎

	美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「新編化学基礎」(東京書籍)
副教材	「ニューサポート新編化学基礎」(東京書籍)

履修学科		普通科(進学・看護医療)	
学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	1編 化学と人間生活 第1章 化学とは何か	- 物質の分離・精製や元素の確認などの実験を通して、単体・化合物及び混合物について理解する。 - 粒子の熱運動と温度及び物質の状態変化との関係について理解する。 - 原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解する。
	5	第2章 物質の成分と構成元素	
	6	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表	
前期 期末	7	2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	- イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。また、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。 - 共有結合を電子配置と関連づけて理解する。また、分子からなる物質の性質を理解する。 - 金属結合及び金属の性質を理解する。
	8	2節 分子と共有結合	
	9	3節 金属と金属結合	
	9	4節 化学結合と物質の分類	
後期 中間	10	3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式	- 物質と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。 - 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 - 酸と塩基の性質を理解する。また、酸・塩基の強弱と電離度の大小についても理解する。
	11	2章 酸と塩基	
	11	2章 酸と塩基	
後期 期末	12	2章 酸と塩基	- 水素イオン濃度とpHの関係を理解する。 - 中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 - 酸化と還元が電子の授受によることを理解する。 - 酸化還元反応と日常生活や社会とのかかわりについて理解する。
	1	3章 酸化還元反応	
	2	3章 酸化還元反応	
	3	終章 化学が拓く世界	

評価の割合	知識・技能(考査90% 平常10%) 思考力・判断力・表現力(考査60% 平常40%) 主体的に学びに向かう態度(平常100%)			
考査の実施	年4回実施			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
留意事項	3 小テスト	○	○	
	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「ニューサポート新編化学基礎」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。			

【保健体育科】

体 育

履 修 学 科	普通科、商業科、美術・デザイン科
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	3 単位
教 科 書	アクティブスポーツ 2024

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期	4	体づくり運動・集団行動	・ 1 年間の授業展開を伝えるとともに、体育の授業で目標としている評価のポイントを理解させる。 ・ 集団行動の中で約束や決まりを守り、機敏的確に行動することを身に付ける。 ・ 体力を高め目的に適した運動能力を身に付ける。 ・ 現在の自分の体力を知り、今後の授業に活かす。 ・ 身体の柔軟性と調整能力を高め、様々な身体表現ができるようにさせる。
	5	スポーツテスト、陸上（走・跳・投）	
	6	ダンス（ラジオ体操）	
	7	バレーボール	・ 個人技能（パス・レシーブ・サーブ）の基本技能を習得すると共に、集団プレーの在り方を学び、ゲームに活かす工夫をさせる。 ・ プレー中の安全に配慮しながら、状況に応じた技能を発揮できるようにさせる。
	8	ソフトボール	
	9		
後 期 中 間	10	剣道(男子)・ダンス(女子)	・ 武道の精神を理解させ、安定した精神力の育成と武術の向上を目指す。 ・ 身体表現力を高めることを通して、自己表現力を高め、個性の伸長を目指す ・ ラケット操作を身に付け、シャトルコックの特性を理解し、基本技能を身に付ける。
	11	バドミントン	
学 年 末	12	バスケットボール	・ 接触プレーの多い球技種目を通して、チームの協調性とルールの順守の大切さを学ばせ、協力し合いながら、パスやドリブル・ボールコントロールの基本技術を身に付け、状況に応じた技能を発揮できるようにさせる。 ・ スポーツの歴史・文化的特徴や現代のスポーツの特徴を知り、体を動かす楽しさや心地よさを味わう。
	1		
	2	体育理論	
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・実技試験の割合は以下の通り。 知・技（実技試験 9 割、実技試験外 1 割） 思・判・表（実技試験 8 割、実技試験外 2 割） 主体的（実技試験外 10 割）			
考査の実施	実技試験による評価			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 実技・考査試験	○	○	
	2 授業態度			○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	運動の必要性を自覚させ、運動習慣の定着と体力向上に努力する姿勢を身に付けさせる。常に集団の一員としての在り方を考えさせ、進んで取り組む資質や改善する能力を養う。また、周囲の安全に気配りできる視野を育成し、互いを労われるようにする。 健康と安全、周りとの協調性を認識しながら、スポーツを生涯の友として取り組む習慣を育成する。			

【保健体育科】

保 健

履修学科	普通科、商業科、美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	1単位
教科書	高等学校 保健体育 Textbook, Activity

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第2章 安全な社会生活 第1節 安全な社会づくり	・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や、歩行などの適切な行動が重要であることについての理解を深める。
	5	第1章 現代社会と健康 第1節 健康の考え方	・日本の健康水準が、科学技術や経済の発展に伴って向上してきたこと、病気の傾向が変化してきていることを理解する。
	6		・「ヘルスプロモーション」の定義について理解することができる。
前期 期末	7	第1章 現代社会と健康 第2節 現代の感染症とその予防	・感染症を防ぐための対策について、感染の仕組みとともに、正しい知識をもつことができる。
	8	第3節 生活習慣病などの予防と回復	・性感染症の予防について正しく理解することができる。
	9		・生活習慣病の原因と、その予防に関する3つの段階について正しく理解することができる。
後期 中間	10	第4節 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	・健康的な食生活のための栄養素の働きや食事摂取基準について、正しく理解をもつことができる。
	11		・がんを早期に発見することの重要性について知り、がんの予防や治療に関する正しい知識をもつことができる。
学年 末	12	第5節 精神疾患の予防と回復	・喫煙者本人のみでなく周囲の人への健康影響などについて理解を深め、喫煙に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。
	1		・アルコールの作用や、それに伴う健康障害についての理解を深め、飲酒に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。
	2		・薬物乱用による心身の健康や社会的な影響について、正しく理解することができる。
	3		・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、精神活動が不全になった状態であることについて理解を深める。
			・心と体のつながりを知り、心の健康を保つための方法について正しい知識をもつことができる。

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期期末・学年末考査			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 課題提出	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれぞれを支える社会環境づくりが重要留意事項であるということから、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。			

【芸術科】

音楽Ⅰ

履 修 学 科	普通科
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	選択必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	教育芸術社 MOUSA 1

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	・「音楽Ⅰ」学習のためのガイダンス、アンケート ・校歌を中心とした「歌唱」 （日本の歌・イタリアの歌）（練習・テスト）	・これまでの音楽学習歴や、音楽に関する興味関心度などの調査 ・発声を学び、伸びやかに歌う。外国語の歌に触れ、日本語の歌との違いを感じ取る「教科書・CD」
	5	・「器楽」（ピアノを中心とした鍵盤楽器）の基礎学習（練習・テスト）	・鍵盤に慣れる 「星に願いを」他
	6	・クラIPPING（リズムアンサンブル）練習および発表（テスト） ・基礎的な楽典および西洋音楽の歴史など①	・リズムを理解し、コミュニケーションと表現力を学ぶ ・発表時のマナーを学び、他の演奏を聴き合いながら表現の違いを感じ取る。 ・教科書、ワークなど
前 期 期 末	7	・ピアノ練習および実技テスト	・鍵盤に慣れるとともに音階や曲の形式について学び、読譜の基礎を確認する
	8	・西洋音楽の歴史（バロック・古典派）	・ワークブックを使用し、楽典の基礎を学ぶ
	9	・ミュージカル映画鑑賞（感想文提出） ・基礎的な楽典および西洋音楽の歴史など②	・西洋音楽の歴史に触れる、作曲家、作品について学ぶ（CD 鑑賞など）
後 期 中 間	10	・ドイツリートに触れる「歌唱」実技テスト	・ミュージカルに触れ、制作の舞台裏や表現力等を学ぶ
	11	・ミュージックベル合奏 ・基礎的な楽典および西洋音楽の歴史③ ・ピアノ課題（練習） 日本の伝統芸能について①	・外国語の歌（ドイツ語）に触れ、文学作品との関連を知る ・合奏を通して互いに聴き合いながら曲を仕上げ、表現することを学ぶ ・日本の伝統芸能の成り立ちなどを学ぶ
学 年 末	12	・ミュージックベル合奏の練習および発表	・発表時のマナーを学び、他の演奏を聴き合いながら表現の違いを感じ取る。
	1	・ピアノ練習およびテスト ・日本の伝統芸能について② ・CD,DVD、動画 鑑賞	・ワークブックを使用し、楽典の基礎を学ぶ ・ロマン派の時代背景や作曲家、作品について学ぶ（CD 鑑賞等）
	2		・日本の伝統芸能の成り立ちなどを学ぶ
	3		

考査の実施	年 4 回			
評価の割合	課題評価（考査含む）と平常点を総合的に評価する。			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力 ・表現力	主体的に学習に 取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 出欠状況			○
	3 実技課題	○	○	○
	4 提出課題等	○	○	○
留意事項	5 定期考査	○	○	
	音楽経験（ピアノを習っている、習ったことがない）などで評価が大きく左右されないように、形勢的評価での評価とします。（今の自分のレベルから上達した部分を評価します） 実技の取り組み具合が大きくかわります。 保育コースは検定に関連した課題などにも取り組みます。			

【芸術科】

美術 I

履 修 学 科	普通科
履 修 学 年	第1学年
履 修 形 態	選択
履 修 単 位	2単位
教 科 書	高校生の美術 I

学期・月		項 目	ねらい・教材等
前 期 中 間	4	美術の学習のガイダンス	・色鉛筆、アクリルガッシュ絵の具などの画材に触れ、 絵画、デザインにおいて美術の大切な要素となる色の特 徴や色の選択、混色、重色を学習する。 ・複数の図法を用い、スケッチを通して描くことに慣れ ながら、形や質感をとらえる力を身につける。
	5	＜色彩と形＞ 色の特徴	
	6	形の特徴	
前 期 期 末	7	＜絵画制作＞	・身近な風景をスケッチし、構図、線遠近法を学習する。 ・絵の具の表現方法を学び、風景画や自画像を制作する。
	8	風景画を描く	
	9		
後 期 中 間	10	＜彫刻制作＞	・彫刻作品に込められた作者の想について考えながら、 彫塑作品に対する鑑賞の能力を養う。 ・作品のテーマやモチーフを考えながら、自然素材の塊 からかたちを掘り出し、彫刻作品を制作する。
	11	塊から掘り出す彫刻	
	12		
後 期 期 末	1	＜デザイン＞ 日本美術	・日本美術の歴史や伝統工芸を学習し、美術文化への鑑 賞する力を養う。 ・造形的なよさや美しさ、目的や条件などを基に美的感 覚をはたらかせながら、生活と密着する現代のデザイ ン事情について学習する。
	2	暮らしの中のデザイン	
	3		

評価の割合	課題評価（考査含む）と観点別評価を総合的に評価する。			
考査の実施	年2回実施 前期期末・後期末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
	5 考査	○	○	
留意事項				

【外国語科】

英語

コミュニケーション I

履修学科	普通科（進学・看護）
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	4単位
教科書	APPLAUSE English Communication I (開隆堂)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間		中学既習事項の確認・復習、高校英語への導入	「APPLAUSE English Communication I Workbook」 「システム英単語 Basic」
	4 5 6	Lesson 1 The Amazing Scenery Lesson 2 The Mysterious History of Chocolate	①世界の絶景の中で、自身の行ってみたい世界遺産など場所についてまとめ、お互いに話し合いをし、発表する。また地球の環境問題についても考える。構文 (SV SVC SVO SVOO SVOC)を理解する。 ②チョコレートの歴史を知り、近年健康食品としてとらえられるようになったチョコレートの奥深さに触れる。構文 SV0 (that 節)、比較級、最上級、as～asを理解する。
前 期 期 末		Lesson 3 The Secrets of Top Athletes	③世界で活躍するアスリートの取り組み方の違いについて考える。現在完了形、現在完了進行形、過去完了形を理解する。
	7 8 9	Lesson 4 Evolving Airplanes Lesson 5 The Symbol of Peace	④飛行機の歴史と未来の飛行機についてや、飛行機内での楽しみ方など、飛行機にまつわることを理解する。助動詞、受動態、助動詞＋受動態を理解する。 ⑤アフリカのコンゴ共和国とコンゴ民主共和国の違いと共通点を読み取り、平和のためにできることについて考える。動名詞、不定詞、形式主語を理解する。
後 期 中 間		Lesson 6 Serendipity	⑥偶然の幸運はどのような時にやってくるのか、またどのようにやってくるのか、つかみ取る力について考える。分詞の後置修飾、知覚動詞、使役動詞を理解する。
	10 11	Lesson 7 The Secrets Hidden in Vermeer's Works	⑦オランダ人画家フェルメールの生涯や作品、人気の理由や作風などについて理解する。関係代名詞 (主格)、関係代名詞 (目的格)、関係代名詞 (所有格)を理解する。

後 期 期 末		Lesson 8 Endangered Species in the World	⑧世界の「絶滅危惧種」を守るために、何ができるかを考え、理解を深める。前置詞＋関係代名詞、関係副詞、関係代名詞と関係副詞の非制限用法を理解する。
	12		
	1		
	2	Lesson 9 The Dream of Special Makeup	⑨世界的に有名な特殊メイクアップアーティスト「カズ・ヒロ」さんの生き方を読み取る。条件を表す副詞節、仮定法過去、I wish＋仮定法過去、as if ＋仮定法過去を理解する。
	3		
		Lesson10 Purifying Powder	⑩きれいな水を手に入れる方法、水の重要性について再確認をする。関係代名詞 what、強調構文、分詞構文、SV00 (how to ～) を理解する。

3

考査の実施		前期中間考査・前期期末考査・後期中間考査・学年末考査		
評価方法		主な評価内容		
観点別評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考査	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動			○
留意事項		・英語4技能を意識した学習内容を実施する。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。		

【家庭科】

家庭基礎

履修学科	普通科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・食生活をつくる 食生活の現状と課題 栄養素と食品	・食事の役割や栄養素の種類と機能、食生活の課題について理解する。
	5	食品の保存 調理実習	・調理の安全や衛生について考える。
	6	・住生活をつくる 住まいの計画 安全で衛生的な住まい	・調理の基礎を学び、調理法を理解する。 ・食の安全や衛生、配膳や食事のマナーを理解する。 ・ホームプロジェクト ・ライフスタイルに応じた住空間の構成を理解する。 ・安全な住まいについて考える。
前期 期末	7	・子どもと共に育つ 親の役割	・乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育について理解する。
	8	子どもの成長のようすと生活	
	9	・高齢社会を生きる ・共に生き共に支える	・高齢社会について理解する。 ・家族や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活していくことの重要性について理解する。
後期 中間	10	・衣生活をつくる 衣服の機能を考える (衣服材料を知る)	・被服の機能について、これから迎える社会生活を念頭に置き、社会習慣への適応と被服材料の性能や被服構成との関わりの深さについて考える。
	11	衣服計画を立てる (衣生活と環境)	・資源の有効活用の観点から、購入・廃棄まで考えた被服計画の重要性を理解する。
	12	縫製の基礎	・基礎縫製（手縫いの基礎）
後期 期末	1	・自分らしい人生をつくる 家族・家庭と法律 青年期の課題とは	・家族に関する法律、家族が社会制度として存在することの意味などについて関心を持って学ぶ。
	2	・経済生活を営む 消費生活	・経済的自立について考え理解する。
	3	・生活を設計する	・消費生活について考え理解する。 ・生涯を見通す。

評価の割合	考查点 6 0 % 観点別 4 0 %			
考查の実施	前期期末・後期期末 評価は 4 回（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末）			
観点別の評価	主な評価内容	評 価 の 観 点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む意欲
	1 授業態度		○	○
	2 課題提出	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	・人の一生と家族、家庭及び衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 ・基礎縫製や調理実習などの作業では、集団での自己を理解し、互いに協力して仕事を進め、真剣な態度で実習に取り組むようにする。			

【教科情報】

情報 I

履 修 学 科	普通科，美術・デザイン科
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	最新 情報 I 日本文教出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4 5 6	第 1 章 1 節 情報の特性 2 節 メディアの特性 3 節 問題解決の考え方	・情報、メディアの特性を考える。 ・問題解決の考え方を身につける ・著作権侵害について考える。 ・個人情報について考える。 ・サイバー犯罪について考える。
		4 節 法的重要性と意義—知的財産権 5 節 法的重要性と意義—個人情報 6 節 情報社会と情報セキュリティ 7 節 情報技術の発展による生活の変化 8 節 情報技術の発展による社会の変化	・ソーシャルメディアの適切な活用法を身につける。 ・情報技術の発展と社会の変化を考える。 ----- ・PC、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの基本操作 ・プログラミングについて
		第 2 章 1 節 メディアとコミュニケーション 2 節 情報のデジタル化 3 節 情報デザイン	・メディアの発達、コミュニケーションの形態や特性を理解する。 ・情報機器のパーソナル化とソーシャルメディアの関係性を理解する。 ・アナログとデジタルの違い、2 進法と情報の単位との関係を理解する。 ・コンピュータによる情報の表現のしくみを理解する。 ・情報デザインの考え方を知る。 ・情報デザインによる問題解決のプロセスを理解する。 ----- ・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの基本操作 ・プログラミング基礎
		第 3 章 1 節 コンピュータのしくみ 2 節 アルゴリズムとプログラム 3 節 モデル化とシミュレーション	・コンピュータの基本的な構成を理解する。 ・CPU による演算のしくみを理解する。 ・アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る ・変数、データ型、演算子、関数などプログラムを構成する要素を確認する。 ・配列など、プログラミングでデータを効率よく利用する方法を理解する。 ・グループ分けプログラムの作成手順を見ながらプログラミングの方法を理解する。 ・モデル化とシミュレーションの考え方を理解する。 ・プログラミングによりコンピュータを用いてシミュレーションをする。 ----- ・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用 ・プログラミングの基礎と演習
前 期 期 末	7 8 9		
後 期 中 間	10 11 12		

後 期 期 末	1	第4章 ネットワークとセキュリティ	・コンピュータネットワークの構成を 理解する。 ・データ伝送のしくみとプロトコルの役割を理解する。 ・暗号化などの情報セキュリティを高める方法について理解する。 ・データの活用が問題解決に役立つことを踏まえ、データ収集の方法を理解する。 ・数値データ、テキストデータの分析方法を理解する。 ・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用 ・プログラミング演習
	2	1 節 情報通信ネットワークのしくみ	
	3	2 節 情報システムとデータベース	
	3	3 節 データの活用	

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解し，技能を身につけているとともに，情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。
【評価場面】			
授業中の発言・観察	○	○	○
グループ協議		○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	
実技テスト (年2回)	○	○	
定期考査 (年2回)	○	○	

令和 6 年度

商業科

シラバス

(令和 6 年度 入学生以降)

第 1 学年

【国語科】

現代の国語

履 修 学 科	全科共通
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	現代の国語 数研出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	○読むと書く	○言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。
	5	●問題を提起する	○文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。
	6	◎言語技術の実践 1	●文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。 ●自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。 ◎情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使う。 ◎目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。 ◎読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。
前 期 期 末	7	○解釈を述べる事実	○比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使う。
	8	●意見を述べる無痛	○目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりする。
	9	◎言語技術の実践 2	●引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使う。 ●読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。 ◎話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使う。 ◎話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫する。
後 期 中 間	10	○新しい視点 1	○実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	11	●新しい視点 2	○目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。
		◎言語技術の実践 3	●主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。 ●自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫する。 ◎推論の仕方を理解し使う。 ◎論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりする。 ◎論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫する。
後 期 期 末	12.	○環境と科学	○個別の情報と一般化された情報との関係について理解することができる。
	1	●実用の文章	○目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する。
	2 3		●実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ●読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。

考査の実施	年 4 回実施 （前期中間・前期期末・後期中間・学年末）			
	主な評価内容		評価の観点	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 課題の提出	○	○	○
留意事項	使用する補助教材 ○漢字：「漢字ボックス 漢字検定級別対応（5級～2級）」（浜島書店）			

【国語科】

言語文化

履修学科	全科共通
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	言語文化 数研出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	○〈近現代編〉近代小説(一)	○文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 ○作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ●言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。
	5	●〈近現代編〉近代小説(一) 探究の扉	●作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。
	6	◎〈古文編〉説話	◎文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。
前 期 期 末	7	○〈漢文編〉入門	○我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ○作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。
	8	●〈古文編〉随筆(二)	●古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。
	9	◎〈古文編〉和歌	●自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 ◎作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。
後 期 中 間	10	○〈近現代編〉詩歌	○我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	11	●〈漢文編〉故事	○自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。 ●我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。
		◎〈古文編〉軍記物語	●作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する ◎作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。
後 期 期 末	12.	○〈漢文編〉思想	○我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ○作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。
	1	●〈近現代編〉戦争小説	●我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	2		●作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。
	3		

考查の実施	年4回実施（前期中間・前期期末・後期中間・学年末）			
	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 課題作品の提出	○	○	○
留意事項	使用する補助教材 ○漢字：「漢字ボックス 漢字検定級別対応（5級～2級）」（浜島書店）			

【地歴公民科】

公共

履修学科	普通科，商業科，美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「新公共」（第一学習社）

学期・月		項目	学習内容（ねらい）・評価の観点
前期 中間	4	第1編 公共の扉	・人間としての在り方生き方について理解する ・公共的な空間と人間、個人の尊厳や自主・自立に着目して考える。 ・公共的な空間の諸課題を主体的に解決しようとする。
	5	第1章 公共的な空間をつくる私たち	
	6	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	
前期 期末	7	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解する。 ・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら考察する。 ・政治参加・主権・安全保障などについて諸課題を主体的に解決しようとしている。
	8	第2章 政治的な主体となる私たち	
	9	主題4 政治参加と公正な世論形成 主題5 国際社会と国家主権 主題6 日本の安全保障と防衛	
後期 中間	10	主題7 国際社会の変化と日本の役割	・現実社会の諸問題に関わる主体として必要な情報を身に付ける。 ・社会参画を視野に入れ、主題解決に向け協働・考察・構想して表現する。 ・グローバル化した現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	11	第3章 経済的な主体となる私たち	
	12	主題13 経済のグローバル化 ⑦地球環境問題 ⑧資源・エネルギー問題 ⑨国際社会のこれから	
後期 期末	1	主題8 雇用と労働問題	・経済の基本的なしくみと特徴を理解する。 ・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら考察する。 ・雇用問題・職業観・市場機能について主体的に学び考えようとしている。
	2	主題9 社会の変化と職業観	
	3	主題10 市場経済の機能と限界	

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に，国家及び社会の担い手として，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
【評価方法】			
授業態度		○	○
発問評価	○	○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	

ノート提出	○	○	○
定期考査（年4回）	○	○	
留意事項	※各コース担当で進度調整を行う場合もある。		

【数学科】

数学 I

履修学科	商業科、美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	3単位
教科書	新編 数学 I (数研出版)

学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第1章 数と式 第1節 式の計算 1 多項式の加法と減法 2 乗法 3 因数分解	・ 式を目的に応じて1つの文字に着目して整理するなどして既に学習した計算の方法と関連付けて多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。
	5	第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算	・ 数の体系についての理解を深め、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。
	6	第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式	・ 不等式の解の意味や性質を理解し、1次不等式を解く方法を考察し、具体的な課題の解決に1次不等式を活用する力を培う。
前期 期末	7	第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件	・ 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。
	8	3 逆・対偶・裏 4 命題と証明	・ 2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解し、2次関数の式とグラフの関係について、多面的に考察する。
	9	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ	
後期 中間	10	第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	・ 2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。
	11	第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式	・ 2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。
		第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係	・ 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。
学年 末	12	3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用	・ 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決する力などを培う。
	1	4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理・余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用	・ データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な手法などを選択し、分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力などを養う。
	2	第5章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間の関係 6 仮説検定の考え方	
	3	課題学習	

考查の実施	前期中間・前期期末・後期中間・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【理科】

科学と人間生活

履修学科	商業科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「科学と人間生活」(数研出版)
副教材	「科学と人間生活準拠ポートノート」(数研出版)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	序編 科学技術の発展	- 科学技術の発展に伴って、今日の人間生活がどのように変化してきたかについて理解させる。 - プラスチックを構成する粒子である原子の構造、共有結合とその種類、分子の表し方について、化学的な知識を身につけている。
	5	第1編 物質の科学	
	6	第1章 材料とその利用	
前期期末	7	第2編 生命の科学	- DNAの構造を把握し、タンパク質がヒトの生命現象に関与していることを理解している。 - ホルモンの作用による血糖濃度調節のしくみや健康に与える影響を理解している。 - 免疫系、生体防御の概要を理解している。また、眼の基本的な構造を把握し視覚が生じるしくみについて理解している。
	8	第1章 ヒトの生命現象	
	9		
後期中間	10	第3編 光や熱の科学	- 温度と熱運動の関係について理解している。 - 熱平衡・熱量・比熱・熱量の保存・熱伝導や物質の三態について理解している。 - 熱とエネルギーの関係について理解している。
	11	第2章 熱の性質とその利用	
後期期末	12	第4編 宇宙や地球の科学	- 身のまわりにある景観に関心をもち、日本列島の特徴とその成因、日本列島付近のプレートの動きについて科学的に理解できる。 - 具体的な課題の研究・調査を始めるに当たって、課題の設定から研究計画の立案、研究の実施、およびレポートの作成、プレゼンテーションまでの展開を的確に理解している。
	1	第2章 自然景観と自然災害	
	2	終編 これからの科学と人間生活	
	3		

評価の割合	知識・技能（考査 90％ 平常 10％）			
	思考力・判断力・表現力（考査 60％ 平常 40％）			
	主体的に学びに向かう態度（平常 100％）			
考査の実施	年 4 回実施			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
留意事項	3 小テスト	○	○	
	- 授業で配布したプリント等のまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 - 教科書準拠の問題集「科学と人間生活準拠ポートノート」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。			

【保健体育科】

体 育

履 修 学 科	普通科、商業科、美術・デザイン科
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	3 単位
教 科 書	アクティブスポーツ 2024

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期	4	体づくり運動・集団行動	・1年間の授業展開を伝えるとともに、体育の授業で目標としている評価のポイントを理解させる。 ・集団行動の中で約束や決まりを守り、機敏的確に行動することを身に付ける。 ・体力を高め目的に適した運動能力を身に付ける。 ・現在の自分の体力を知り、今後の授業に活かす。 ・身体の柔軟性と調整能力を高め、様々な身体表現ができるようにさせる。
	5	スポーツテスト、陸上（走・跳・投）	
	6	ダンス（ラジオ体操）	
	7	バレーボール	・個人技能（パス・レシーブ・サーブ）の基本技能を習得すると共に、集団プレーの在り方を学び、ゲームに活かす工夫をさせる。 ・プレー中の安全に配慮しながら、状況に応じた技能を発揮できるようにさせる。
	8	ソフトボール	
	9		
後 期 中 間	10	剣道(男子)・ダンス(女子)	・武道の精神を理解させ、安定した精神力の育成と武術の向上を目指す。 ・身体表現力を高めることを通して、自己表現力を高め、個性の伸長を目指す ・ラケット操作を身に付け、シャトルコックの特性を理解し、基本技能を身に付ける。
	11	バドミントン	
学 年 末	12	バスケットボール	・接触プレーの多い球技種目を通して、チームの協調性とルールの順守の大切さを学ばせ、協力し合いながら、パスやドリブル・ボールコントロールの基本技術を身に付け、状況に応じた技能を発揮できるようにさせる。 ・スポーツの歴史・文化的特徴や現代のスポーツの特徴を知り、体を動かす楽しさや心地よさを味わう。
	1		
	2	体育理論	
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・実技試験の割合は以下の通り。 知・技（実技試験 9 割、実技試験外 1 割） 思・判・表（実技試験 8 割、実技試験外 2 割） 主体的（実技試験外 10 割）			
考査の実施	実技試験による評価			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 実技・考査試験	○	○	
	2 授業態度			○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	運動の必要性を自覚させ、運動習慣の定着と体力向上に努力する姿勢を身に付けさせる。常に集団の一員としての在り方を考えさせ、進んで取り組む資質や改善する能力を養う。また、周囲の安全に気配りできる視野を育成し、互いを労われるようにする。 健康と安全、周りとの協調性を認識しながら、スポーツを生涯の友として取り組む習慣を育成する。			

【保健体育科】

保 健

履修学科	普通科、商業科、美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	1単位
教科書	高等学校 保健体育 Textbook, Activity

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期中間	4	第2章 安全な社会生活 第1節 安全な社会づくり	・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や、歩行などの適切な行動が重要であることについての理解を深める。
	5	第1章 現代社会と健康 第1節 健康の考え方	・日本の健康水準が、科学技術や経済の発展に伴って向上してきたこと、病気の傾向が変化してきていることを理解する。
	6		・「ヘルスプロモーション」の定義について理解することができる。
前期期末	7	第1章 現代社会と健康 第2節 現代の感染症とその予防	・感染症を防ぐための対策について、感染の仕組みとともに、正しい知識をもつことができる。
	8	第3節 生活習慣病などの予防と回復	・性感染症の予防について正しく理解することができる。
	9		・生活習慣病の原因と、その予防に関する3つの段階について正しく理解することができる。
後期中間	10	第4節 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	・健康的な食生活のための栄養素の働きや食事摂取基準について、正しく理解をもつことができる。
	11		・がんを早期に発見することの重要性について知り、がんの予防や治療に関する正しい知識をもつことができる。
学年末	12	第5節 精神疾患の予防と回復	・喫煙者本人のみでなく周囲の人への健康影響などについて理解を深め、喫煙に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。
	1		・アルコールの作用や、それに伴う健康障害についての理解を深め、飲酒に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。
	2		・薬物乱用による心身の健康や社会的な影響について、正しく理解することができる。
	3		・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、精神活動が不全になった状態であることについて理解を深める。
			・心と体のつながりを知り、心の健康を保つための方法について正しい知識をもつことができる。

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期期末・学年末考査			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 課題提出	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれぞれを支える社会環境づくりが重要留意事項であるということから、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。			

【外国語科】

英語

コミュニケーション I

履修学科	普通科（未来創造）、商業科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	3単位
教科書	All aboard! English Communication I （東京書籍）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	中学既習事項の確認・復習、高校英語への導入 Warm-up Pre-Lesson 1 My Name Is Ito Neko Pre-Lesson 2 I Like Junk Food!	教材：「英単語ターゲット 1200」 「書き込み式ノート英単語ターゲット 1200 Workbook 1」 「All aboard! ワークブック」 〔題材内容〕世界の朝食を紹介するスピーチを通して、その特徴や相違を学習する。 〔言語材料〕過去形 〔題材内容〕オーストラリアの珍しい野生動物クオッカと観光のルールについて学習する。 〔言語材料〕進行形：〈be 動詞＋動詞の-ing 形〉
	5	Lesson 1 Breakfast around the World	
	6	Lesson 2 Australia's Cute Quokkas	
前期 期末	7	Lesson 3 A Train Driver in Sanriku	〔題材内容〕被災地を運行する列車運転士のスピーチを通して、職業の意義について考える。 〔言語材料〕助動詞：can, will 〔題材内容〕海外の観光地について書かれたメールを通して、その魅力について学習する。 〔言語材料〕to 不定詞：〈to＋動詞の原形〉 〔題材内容〕高校のユニークな部活動を通して、好きなことと将来の夢について考える。 〔言語材料〕動名詞：〈動詞の-ing 形〉
	8	Lesson 4 A Miracle Mirror	
	9	Lesson 5 Learning from the Sea	
後期 中間	10	Lesson 6 A Funny Picture from the Edo Period	〔題材内容〕江戸時代の浮世絵師、歌川国芳についてのスピーチを通して浮世絵と現代マンガの関連性について考える。 〔言語材料〕受け身：〈be 動詞＋過去分詞〉 〔題材内容〕アンネ・フランクの生活と日記について紹介する授業を通して、生きることの意味について考える。 〔言語材料〕比較表現：〈-er〉〈the -est〉〈as＋原級＋as〉 〔題材内容〕ロボットカフェを紹介する実況中継を通して、ロボットの可能性について考える。 〔言語材料〕現在完了形：〈have [has]＋過去分詞〉
	11	Lesson 7 A Diary of Hope	
		Lesson 8 A Door to a New Life	

後 期 期 末	12	Lesson 9 Fighting Plastic Pollution	[題材内容] プラスチックごみによる環境汚染と戦うインドネシアの姉妹の活動を学習する。
	1	Lesson 10 Pigs from across the Sea	[言語材料] 名詞を後ろから説明する分詞
	2		[題材内容] 第二次世界大戦によって疲弊した沖縄とハワイ在住の沖縄出身日系アメリカ人からの援助や、両地域の現在の交流について学習する。
	3		[言語材料] 関係代名詞：who, which

考查の実施	前期中間考查・前期期末考查・後期中間考查・学年末考查			
評価方法	主な評価内容			
観点別評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考查	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動			○
留意事項	・各レッスンにおいて、学習すべき内容を精査し、要点を理解させながら取り組ませる。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。			

【家庭科】

家庭基礎

履修学科	全科共通
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・食生活をつくる 食生活の現状と課題 栄養素と食品	・食事の役割や栄養素の種類と機能、食生活の課題について理解する。
	5	食品の保存 調理実習	・調理の安全や衛生について考える。
	6	・住生活をつくる 住まいの計画 安全で衛生的な住まい	・調理の基礎を学び、調理法を理解する。 ・食の安全や衛生、配膳や食事のマナーを理解する。 ・ホームプロジェクト ・ライフスタイルに応じた住空間の構成を理解する。 ・安全な住まいについて考える。
前期 期末	7	・子どもと共に育つ 親の役割	・乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育について理解する。
	8	子どもの成長のようすと生活	
	9	・高齢社会を生きる ・共に生き共に支える	・高齢社会について理解する。 ・家族や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活していくことの重要性について理解する。
後期 中間	10	・衣生活をつくる 衣服の機能を考える (衣服材料を知る)	・被服の機能について、これから迎える社会生活を念頭に置き、社会習慣への適応と被服材料の性能や被服構成との関わりの深さについて考える。
	11	衣服計画を立てる (衣生活と環境)	・資源の有効活用の観点から、購入・廃棄まで考えた被服計画の重要性を理解する。
	12	縫製の基礎	・基礎縫製（手縫いの基礎）
後期 期末	1	・自分らしい人生をつくる 家族・家庭と法律 青年期の課題とは	・家族に関する法律、家族が社会制度として存在することの意味などについて関心を持って学ぶ。
	2	・経済生活を営む 消費生活	・経済的自立について考え理解する。
	3	・生活を設計する	・消費生活について考え理解する。 ・生涯を見通す。

評価の割合	考查点 6 0 % 観点別 4 0 %			
考查の実施	前期期末・後期期末 評価は 4 回（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末）			
観点別の評価	主な評価内容	評 価 の 観 点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む意欲
	1 授業態度		○	○
	2 課題提出	○	○	○
	3 小テスト	○	○	○
留意事項	・人の一生と家族、家庭及び衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 ・基礎縫製や調理実習などの作業では、集団での自己を理解し、互いに協力して仕事を進め、真剣な態度で実習に取り組むようにする。			

【商業科】

ビジネス基礎

履修学科	商業科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	ビジネス基礎（実教出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第1章 商業の学習とビジネス	・商業を学ぶ重要性和学び方、ビジネスの概要について理解します。 ・ビジネスにおける信頼関係構築やビジネスマナー、情報の重要性を学びます。
	5	第2章 ビジネスとコミュニケーション	
	6		
前期 期末	7	第3章 経済と流通の基礎	・経済の仕組みと流通の必要性について理解します。 ・ビジネスの種類について理解し、流通や流通に関わる様々なビジネスについて学びます。
	8	第4章 さまざまなビジネス	
	9		
後期 中間	10	第5章 企業活動の基礎	・企業活動の形態と組織、マーケティングの重要性和流れなど企業活動に必要な知識を学びます。 ・売買取引、代金決済など取引に関する知識や技術を学びます。
	11	第6章 ビジネスと売買取引	
後期 期末	12	第7章 ビジネス計算	・ビジネス計算に関する知識や技術を学びます。 ・さまざまな地域の魅力と課題、地域ビジネスの動向について学びます。 ・1年間の学習を振り返り、学習内容の定着を図ります。
	1	第8章 身近な地域のビジネス	
	2	まとめ	
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間 ・ 前期期末 ・ 後期中間 ・ 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	・この「ビジネス基礎」は商業科目全体の土台となります。土台を固めて他の商業科目の学習への興味・関心を深めていきます。 ・学習到達度測定の一環として、2月に全商商業経済検定（ビジネス基礎）を受験します。			

【商業科】

簿 記

履修学科	商業科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	4単位
教科書	新簿記（実教出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第1編 簿記の基礎 第1章 簿記の基礎 ～ 第9章 決算	○ 簿記の意味・目的・役割などを理解すると共に、簿記上の取引の意味を理解します。 ○ 資産・負債・純資産・収益・費用の意味を明らかにし、それぞれの関係性を理解します。 ○ 決算の意味・必要性・重要性について理解します。
	5		
	6		
前期 期末	7	第2編 取引の記帳（その1） 第10章 現金・預金などの取引 ～ 第17章 販売費と一般管理費、税金の取引	○ 企業における基本となる取引の記帳方法について学習します。 ○ 現金預金取引・掛け取引・手形取引などの基本的な記帳方法を理解します。 ○ 3分法による商品売買の記帳方法を理解します。
	8		
	9		
後期 中間	10	第3編 決算（その1） 第18章 決算整理（その1） ～ 第20章 帳簿決算 第4編 会計帳簿と帳簿組織 第21章 会計帳簿 ～ 第23章 会計ソフトウェアの活用	○ 個人企業における決算のしくみと手続きを学習します。 ○ 決算整理について理解し、貸借対照表・損益計算書を作成できるようにします。 ○ 伝票（3伝票）を用いて記帳する方法や会計ソフトウェアの活用の利点について学習します。
	11		
後期 期末	11	●総合学習 ●進んだ学習 第5編 取引の記帳（その2） 第24章 特殊な手形の取引 ～ 第26章 本支店会計	○ 3級の内容を振り返り、仕訳の確認など、知識の定着を図ります。 ○ 2年次の学習に向けて、進んだ学習をします。 ○ 特殊な手形の取引や本支店取引の記帳方法について理解します。
	12		
	1		
	2		
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間・前期期末・後期中間・後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	個々の能力・適性に応じた進度により、習熟度別に授業を展開していきます。ただし、考査においては、共通問題とし、公平な評価を行います。 ○学習到達度を図るため以下の検定試験を受験します。 1月 全国商業高等学校協会 簿記実務検定試験 3級			

【商業科】

情報処理

履修学科	商業科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	3単位
教科書	情報処理（実教出版）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第4章 ビジネス文書の作成	- 文章の表現及び文書作成ソフトウェアの活用について学習します。 - 企業における情報の意義と役割、情報モラル、情報デザインについて学習します。
	5	第1章 企業活動と情報処理	
	6		
前期 期末	7	第2章 コンピュータシステムと情報通信ネットワーク	インターネットやLANの概要、ビジネスに関する情報の収集、発信および適切なセキュリティ管理について学習します。
	8		
	9		
後期 中間	10	第3章 情報の集計と分析	- 表計算ソフトウェアを活用し、ビジネスに関する情報の処理と分析を行うための基礎的な知識と技術について学習します。 - 問題の発見と解決の方法としての様々な手法を学び、その解決に向けたアルゴリズムの構築についての基礎的な内容を学習します。
	11		
後期 期末	12	第5章 プレゼンテーション	- 目的や形態によるプレゼンテーション方法の違いを学び、プレゼンテーションソフトウェアの活用方法を学習します。 1年間の学習を振り返り、学習内容の定着を図ります。
	1	まとめ	
	2		
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期中間 ・ 前期期末 ・ 後期中間 ・ 後期期末			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	・学習到達度測定の一環として、9月、1月に行われる全商情報処理検定を1つの目標として学習します。			

令和 6 年度

美術・デザイン科

シラバス

(令和 6 年度 入学生以降)

第 1 学年

【国語科】

現代の国語

履 修 学 科	全科共通
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	現代の国語 数研出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	○読むと書く	○言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解する。
	5	●問題を提起する	○文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握する。
	6	◎言語技術の実践 1	●文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解する。 ●自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫する。 ◎情報の妥当性や信頼性の吟味の仕方について理解を深め使う。 ◎目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にする。 ◎読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。
前 期 期 末	7	○解釈を述べる事実	○比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使う。
	8	●意見を述べる無痛	○目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉え直したりする。
	9	◎言語技術の実践 2	●引用の仕方や出典の示し方、それらの必要性について理解を深め使う。 ●読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。 ◎話し言葉と書き言葉の特徴や役割、表現の特色を踏まえ、正確さ、分かりやすさ、適切さ、敬意と親しさなどに配慮した表現や言葉遣いについて理解し、使う。 ◎話し言葉の特徴を踏まえて話したり、場の状況に応じて資料や機器を効果的に用いたりするなど、相手の理解が得られるように表現を工夫する。
後 期 中 間	10	○新しい視点 1	○実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	11	●新しい視点 2	○目的に応じて、文章や図表などに含まれている情報を相互に関係付けながら、内容や書き手の意図を解釈したり、文章の構成や論理の展開などについて評価したりするとともに、自分の考えを深める。
		◎言語技術の実践 3	●主張と論拠など情報と情報との関係について理解する。 ●自分の考えが的確に伝わるよう、自分の立場や考えを明確にするとともに、相手の反応を予想して論理の展開を考えるなど、話の構成や展開を工夫する。 ◎推論の仕方を理解し使う。 ◎論理の展開を予想しながら聞き、話の内容や構成、論理の展開、表現の仕方を評価するとともに、聞き取った情報を整理して自分の考えを広げたり深めたりする。 ◎論点を共有し、考えを広げたり深めたりしながら、話合いの目的、種類、状況に応じて、表現や進行など話合いの仕方や結論の出し方を工夫する。
後 期 期 末	12.	○環境と科学	○個別の情報と一般化された情報との関係について理解することができる。
	1	●実用の文章	○目的や場に応じて、実社会の中から適切な話題を決め、様々な観点から情報を収集、整理して、伝え合う内容を検討する。
	2 3		●実社会において理解したり表現したりするために必要な語句の量を増すとともに、語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。 ●読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫する。

考査の実施	年 4 回実施 （前期中間・前期期末・後期中間・学年末）			
	主な評価内容		評価の観点	
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 課題の提出	○	○	○
留意事項	使用する補助教材 ○漢字：「漢字ボックス 漢字検定級別対応（5級～2級）」（浜島書店）			

【国語科】

言語文化

履修学科	全科共通
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	言語文化 数研出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4	○〈近現代編〉近代小説(一)	○文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解する。 ○作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。 ●言葉には、文化の継承、発展、創造を支える働きがあることを理解する。
	5	●〈近現代編〉近代小説(一) 探究の扉	●作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。
	6	◎〈古文編〉説話	◎文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉える。
前 期 期 末	7	○〈漢文編〉入門	○我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ○作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。
	8	●〈古文編〉随筆(二)	●古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。
	9	◎〈古文編〉和歌	●自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する。 ◎作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。
後 期 中 間	10	○〈近現代編〉詩歌	○我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	11	●〈漢文編〉故事	○自分の体験や思いが効果的に伝わるよう、文章の種類、構成、展開や、文体、描写、語句などの表現の仕方を工夫する。 ●我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。
		◎〈古文編〉軍記物語	●作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。 ◎古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解する ◎作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈する。
後 期 期 末	12.	○〈漢文編〉思想	○我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解する。 ○作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深める。
	1	●〈近現代編〉戦争小説	●我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにする。
	2		●作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもつ。
	3		

考査の実施	年4回実施（前期中間・前期期末・後期中間・学年末）			
	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 教材及びワークシートの取り組み	○	○	○
	4 課題作品の提出	○	○	○
留意事項	使用する補助教材 ○漢字：「漢字ボックス 漢字検定級別対応（5級～2級）」（浜島書店）			

【地歴公民科】

公共

履修学科	普通科，商業科，美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「新公共」（第一学習社）

学期・月		項目	学習内容（ねらい）・評価の観点
前期 中間	4	第1編 公共の扉	・人間としての在り方生き方について理解する ・公共的な空間と人間、個人の尊厳や自主・自立に着目して考える。 ・公共的な空間の諸課題を主体的に解決しようとする。
	5	第1章 公共的な空間をつくる私たち	
	6	第2章 公共的な空間における人間としてのあり方生き方	
前期 期末	7	第2編 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち	・政治参加と公正な世論形成に関わる現実社会の事柄や課題を理解する。 ・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら考察する。 ・政治参加・主権・安全保障などについて諸課題を主体的に解決しようとしている。
	8	第2章 政治的な主体となる私たち	
	9	主題4 政治参加と公正な世論形成 主題5 国際社会と国家主権 主題6 日本の安全保障と防衛	
後期 中間	10	主題7 国際社会の変化と日本の役割	・現実社会の諸問題に関わる主体として必要な情報を身に付ける。 ・社会参画を視野に入れ、主題解決に向け協働・考察・構想して表現する。 ・グローバル化した現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
	11	第3章 経済的な主体となる私たち	
	12	主題13 経済のグローバル化 ⑦地球環境問題 ⑧資源・エネルギー問題 ⑨国際社会のこれから	
後期 期末	1	主題8 雇用と労働問題	・経済の基本的なしくみと特徴を理解する。 ・具体的な主題を設定し、合意形成や社会参画を視野に入れながら考察する。 ・雇用問題・職業観・市場機能について主体的に学び考えようとしている。
	2	主題9 社会の変化と職業観	
	3	主題10 市場経済の機能と限界	

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	現代の諸課題を捉え考察し，選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに，諸資料から，倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	現実社会の諸課題の解決に向けて，選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して，事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり，合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したりしている。	よりよい社会の実現を視野に，国家及び社会の担い手として，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
【評価方法】			
授業態度		○	○
発問評価	○	○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	

ノート提出	○	○	○
定期考査（年4回）	○	○	
留意事項	※各コース担当で進度調整を行う場合もある。		

【数学科】

数学 I

履修学科	商業科、美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	3単位
教科書	新編 数学 I (数研出版)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第1章 数と式 第1節 式の計算 1 多項式の加法と減法 2 乗法 3 因数分解	・ 式を目的に応じて1つの文字に着目して整理するなどして既に学習した計算の方法と関連付けて多面的に捉えたり、目的に応じて適切に変形したりする力を培う。
	5	第2節 実数 4 実数 5 根号を含む式の計算	・ 数の体系についての理解を深め、簡単な無理数の四則計算ができるようにする。
	6	第3節 1次不等式 6 不等式の性質 7 1次不等式 8 絶対値を含む方程式・不等式	・ 不等式の解の意味や性質を理解し、1次不等式を解く方法を考察し、具体的な課題の解決に1次不等式を活用する力を培う。
前期 期末	7	第2章 集合と命題 1 集合 2 命題と条件	・ 集合と命題に関する基本的な概念を理解し、それを事象の考察に活用できるようにする。
	8	3 逆・対偶・裏 4 命題と証明	・ 2次関数の値の変化やグラフの特徴を理解し、2次関数の式とグラフの関係について、多面的に考察する。
	9	第3章 2次関数 第1節 2次関数とグラフ 1 関数とグラフ 2 2次関数のグラフ	
後期 中間	10	第2節 2次関数の値の変化 3 2次関数の最大・最小 4 2次関数の決定	・ 2次関数のグラフを通して関数の値の変化を考察し、2次関数の最大値や最小値を求めることができるようにする。
	11	第3節 2次方程式と2次不等式 5 2次方程式 6 2次関数のグラフとx軸の位置関係 7 2次不等式	・ 2次方程式や2次不等式の解と2次関数のグラフとの関係について理解し、2次関数のグラフを用いて2次不等式の解を求められるようにする。
		第4章 図形と計量 第1節 三角比 1 三角比 2 三角比の相互関係	・ 三角比の意味やその基本的な性質について理解し、三角比の相互関係などを理解できるようにする。また、日常の事象などを数学的にとらえ、三角比を活用して問題を解決する力を培う。
学年 末	12	3 三角比の拡張 第2節 三角形への応用	・ 図形の構成要素間の関係を、三角比を用いて表現し定理や公式を導く力、日常の事象などを数学的にとらえ、正弦定理、余弦定理などを活用して問題を解決する力などを培う。
	1	4 正弦定理 5 余弦定理 6 正弦定理・余弦定理の応用 7 三角形の面積 8 空間図形への応用	・ データの散らばり具合や傾向を数値化する方法を考察する力、目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な手法などを選択し、分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現する力などを養う。
	2	第5章 データの分析 1 データの整理 2 データの代表値 3 データの散らばりと四分位数 4 分散と標準偏差 5 2つの変量の間の関係 6 仮説検定の考え方	
	3	課題学習	

考查の実施	前期中間・前期期末・後期中間・学年末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む態度
	1 定期考查	○	○	
	2 小テスト	○	○	
	3 課題提出	○	○	○
	4 ワークシート	○	○	○
留意事項				

【理科】

化学基礎

	美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	「新編化学基礎」(東京書籍)
副教材	「ニューサポート新編化学基礎」(東京書籍)

履修学科		普通科(進学・看護医療)	
学期・月		項目	ねらい・教材など
前期 中間	4	1編 化学と人間生活 第1章 化学とは何か	- 物質の分離・精製や元素の確認などの実験を通して、単体・化合物及び混合物について理解する。 - 粒子の熱運動と温度及び物質の状態変化との関係について理解する。 - 原子の構造及び電子配置と周期律との関係を理解する。
	5	第2章 物質の成分と構成元素	
	6	2編 物質の構成 1章 原子の構造と元素の周期表	
前期 期末	7	2章 化学結合 1節 イオンとイオン結合	- イオンの生成を電子配置と関連付けて理解する。また、イオン結合及びイオン結合でできた物質の性質を理解する。 - 共有結合を電子配置と関連づけて理解する。また、分子からなる物質の性質を理解する。 - 金属結合及び金属の性質を理解する。
	8	2節 分子と共有結合	
	9	3節 金属と金属結合	
	9	4節 化学結合と物質の分類	
後期 中間	10	3編 物質の変化 1章 物質と化学反応式	- 物質と粒子数、質量、気体の体積との関係について理解する。 - 化学反応式は化学反応に関与する物質とその量的関係を表すことを理解する。 - 酸と塩基の性質を理解する。また、酸・塩基の強弱と電離度の大小についても理解する。
	11	2章 酸と塩基	
	11	2章 酸と塩基	
後期 期末	12	2章 酸と塩基	- 水素イオン濃度とpHの関係を理解する。 - 中和反応に関与する物質の量的関係を理解する。 - 酸化と還元が電子の授受によることを理解する。 - 酸化還元反応と日常生活や社会とのかかわりについて理解する。
	1	3章 酸化還元反応	
	2	3章 酸化還元反応	
	3	終章 化学が拓く世界	

評価の割合	知識・技能(考査90% 平常10%) 思考力・判断力・表現力(考査60% 平常40%) 主体的に学びに向かう態度(平常100%)			
考査の実施	年4回実施			
平常点の評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に向かう態度
	1 授業態度			○
	2 提出物 (プリント、ノート、ワーク等)	○	○	○
留意事項	3 小テスト	○	○	
	・授業で配布したプリントのまとめをしっかりと行い、ノートもきちんととること。 ・教科書準拠の問題集「ニューサポート新編化学基礎」は、各自予習復習に用い、考査前には3回以上やり遂げていること。			

【保健体育科】

体 育

履 修 学 科	普通科、商業科、美術・デザイン科
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	3 単位
教 科 書	アクティブスポーツ 2024

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期	4	体づくり運動・集団行動	・ 1 年間の授業展開を伝えるとともに、体育の授業で目標としている評価のポイントを理解させる。 ・ 集団行動の中で約束や決まりを守り、機敏的確に行動することを身に付ける。 ・ 体力を高め目的に適した運動能力を身に付ける。 ・ 現在の自分の体力を知り、今後の授業に活かす。 ・ 身体の柔軟性と調整能力を高め、様々な身体表現ができるようにさせる。
	5	スポーツテスト、陸上（走・跳・投）	
	6	ダンス（ラジオ体操）	
	7	バレーボール	・ 個人技能（パス・レシーブ・サーブ）の基本技能を習得すると共に、集団プレーの在り方を学び、ゲームに活かす工夫をさせる。 ・ プレー中の安全に配慮しながら、状況に応じた技能を発揮できるようにさせる。
	8	ソフトボール	
	9		
後 期 中 間	10	剣道(男子)・ダンス(女子)	・ 武道の精神を理解させ、安定した精神力の育成と武術の向上を目指す。 ・ 身体表現力を高めることを通して、自己表現力を高め、個性の伸長を目指す ・ ラケット操作を身に付け、シャトルコックの特性を理解し、基本技能を身に付ける。
	11	バドミントン	
学 年 末	12	バスケットボール	・ 接触プレーの多い球技種目を通して、チームの協調性とルールの順守の大切さを学ばせ、協力し合いながら、パスやドリブル・ボールコントロールの基本技術を身に付け、状況に応じた技能を発揮できるようにさせる。 ・ スポーツの歴史・文化的特徴や現代のスポーツの特徴を知り、体を動かす楽しさや心地よさを味わう。
	1		
	2	体育理論	
	3		

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・実技試験の割合は以下の通り。 知・技（実技試験 9 割、実技試験外 1 割） 思・判・表（実技試験 8 割、実技試験外 2 割） 主体的（実技試験外 10 割）			
考査の実施	実技試験による評価			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 実技・考査試験	○	○	
	2 授業態度			○
留意事項	3 課題提出	○	○	○
	運動の必要性を自覚させ、運動習慣の定着と体力向上に努力する姿勢を身に付けさせる。常に集団の一員としての在り方を考えさせ、進んで取り組む資質や改善する能力を養う。また、周囲の安全に気配りできる視野を育成し、互いを労われるようにする。 健康と安全、周りとの協調性を認識しながら、スポーツを生涯の友として取り組む習慣を育成する。			

【保健体育科】

保 健

履修学科	普通科、商業科、美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	1単位
教科書	高等学校 保健体育 Textbook, Activity

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	第2章 安全な社会生活 第1節 安全な社会づくり	・交通事故を防止するためには、車両の特性の理解、安全な運転や、歩行などの適切な行動が重要であることについての理解を深める。
	5	第1章 現代社会と健康 第1節 健康の考え方	・日本の健康水準が、科学技術や経済の発展に伴って向上してきたこと、病気の傾向が変化してきていることを理解する。
	6		・「ヘルスプロモーション」の定義について理解することができる。
前期 期末	7	第1章 現代社会と健康 第2節 現代の感染症とその予防	・感染症を防ぐための対策について、感染の仕組みとともに、正しい知識をもつことができる。
	8	第3節 生活習慣病などの予防と回復	・性感染症の予防について正しく理解することができる。
	9		・生活習慣病の原因と、その予防に関する3つの段階について正しく理解することができる。
後期 中間	10	第4節 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康	・健康的な食生活のための栄養素の働きや食事摂取基準について、正しく理解をもつことができる。
	11		・がんを早期に発見することの重要性について知り、がんの予防や治療に関する正しい知識をもつことができる。
学年 末	12	第5節 精神疾患の予防と回復	・喫煙者本人のみでなく周囲の人への健康影響などについて理解を深め、喫煙に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。
	1		・アルコールの作用や、それに伴う健康障害についての理解を深め、飲酒に関する適切な意志決定や行動選択をできるようにする。
	2		・薬物乱用による心身の健康や社会的な影響について、正しく理解することができる。
	3		・精神疾患は、精神機能の基盤となる心理的、生物的、または社会的な機能の障害などが原因となり、精神活動が不全になった状態であることについて理解を深める。
			・心と体のつながりを知り、心の健康を保つための方法について正しい知識をもつことができる。

評価の割合	各観点を平均して算出する。観点別・定期考査の割合は以下の通り。 知・技（考査9割、考査外1割）思・判・表（考査6割、考査外4割）主体的（考査外10割） 定期考査の割合（知・技6割、思・判・表4割）			
考査の実施	前期期末・学年末考査			
評価項目	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 定期考査	○	○	
	2 課題提出	○	○	○
	3 小テスト	○	○	
留意事項	健康を保持増進するためには、個人の行動選択やそれぞれを支える社会環境づくりが重要留意事項であるということから、人々が自らの健康を適切に管理すること及び環境を改善していくことが重要であることを理解できるようにする。			

【外国語科】

英語

コミュニケーション I

履修学科	美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	3単位
教科書	APPLAUSE English Communication I (開隆堂)

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間		中学既習事項の確認・復習、高校英語への導入	「APPLAUSE English Communication I Workbook」 「システム英単語 Basic」
	4 5 6	Lesson 1 The Amazing Scenery Lesson 2 The Mysterious History of Chocolate	①世界の絶景の中で、自身の行ってみたい世界遺産など場所についてまとめ、お互いに話し合いをし、発表する。また地球の環境問題についても考える。構文 (SV SVC SVO SVOO SVOC)を理解する。 ②チョコレートの歴史を知り、近年健康食品としてとらえられるようになったチョコレートの奥深さに触れる。構文 SV0 (that 節)、比較級、最上級、as～asを理解する。
前期 期末		Lesson 3 The Secrets of Top Athletes	③世界で活躍するアスリートの取り組み方の違いについて考える。現在完了形、現在完了進行形、過去完了形を理解する。
	7 8 9	Lesson 4 Evolving Airplanes Lesson 5 The Symbol of Peace	④飛行機の歴史と未来の飛行機についてや、飛行機内での楽しみ方など、飛行機にまつわることを理解する。助動詞、受動態、助動詞＋受動態を理解する。 ⑤アフリカのコンゴ共和国とコンゴ民主共和国の違いと共通点を読み取り、平和のためにできることについて考える。動名詞、不定詞、形式主語を理解する。
後期 中間		Lesson 6 Serendipity	⑥偶然の幸運はどのような時にやってくるのか、またどのようにやってくるのか、つかみ取る力について考える。分詞の後置修飾、知覚動詞、使役動詞を理解する。
	10 11	Lesson 7 The Secrets Hidden in Vermeer's Works	⑦オランダ人画家フェルメールの生涯や作品、人気の理由や作風などについて理解する。関係代名詞 (主格)、関係代名詞 (目的格)、関係代名詞 (所有格)を理解する。

後 期 期 末	12	Lesson 8 Endangered Species in the World	⑧世界の「絶滅危惧種」を守るために、何ができるかを考え、理解を深める。前置詞＋関係代名詞、関係副詞、関係代名詞と関係副詞の非制限用法を理解する。
	1 2 3	Lesson 9 The Dream of Special Makeup	⑨世界的に有名な特殊メイクアップアーティスト「カズ・ヒロ」さんの生き方を読み取る。条件を表す副詞節、仮定法過去、I wish＋仮定法過去、as if ＋仮定法過去を理解する。
		Lesson10 Purifying Powder	⑩きれいな水を手に入れる方法、水の重要性について再確認をする。関係代名詞 what、強調構文、分詞構文、SV00 (how to ～) を理解する。

考查の実施	前期中間考查・前期期末考查・後期中間考查・学年末考查			
評価方法	主な評価内容			
観点別評価方法	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に取り組む態度
	1 授業態度			○
	2 定期考查	○	○	
	3 課題内容	○	○	○
	4 小テスト	○	○	
	5 レポート	○		
	6 発表		○	
	7 ワークシート		○	
	8 会話活動			○
留意事項	・各レッスンにおいて、学習すべき内容を精査し、要点を理解させながら取り組ませる。 ・生徒が英語を発する活動をできるだけ増やし、英語使用への動機づけを行う。 ・生徒の実態に応じた評価方法を、工夫し実施する。			

【家庭科】

家庭基礎

履修学科	全科共通
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	家庭基礎 自立・共生・創造（東京書籍）

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	・食生活をつくる 食生活の現状と課題 栄養素と食品	・食事の役割や栄養素の種類と機能、食生活の課題について理解する。
	5	食品の保存 調理実習	・調理の安全や衛生について考える。
	6	・住生活をつくる 住まいの計画 安全で衛生的な住まい	・調理の基礎を学び、調理法を理解する。 ・食の安全や衛生、配膳や食事のマナーを理解する。 ・ホームプロジェクト ・ライフスタイルに応じた住空間の構成を理解する。 ・安全な住まいについて考える。
前期 期末	7	・子どもと共に育つ 親の役割	・乳幼児の心身の発達と生活、親の役割と保育について理解する。
	8	子どもの成長のようすと生活	
	9	・高齢社会を生きる ・共に生き共に支える	・高齢社会について理解する。 ・家族や地域及び社会の一員としての自覚をもって共に支え合って生活していくことの重要性について理解する。
後期 中間	10	・衣生活をつくる 衣服の機能を考える (衣服材料を知る)	・被服の機能について、これから迎える社会生活を念頭に置き、社会習慣への適応と被服材料の性能や被服構成との関わりの深さについて考える。
	11	衣服計画を立てる (衣生活と環境)	・資源の有効活用の観点から、購入・廃棄まで考えた被服計画の重要性を理解する。
	12	縫製の基礎	・基礎縫製（手縫いの基礎）
後期 期末	1	・自分らしい人生をつくる 家族・家庭と法律 青年期の課題とは	・家族に関する法律、家族が社会制度として存在することの意味などについて関心を持って学ぶ。
	2	・経済生活を営む 消費生活	・経済的自立について考え理解する。
	3	・生活を設計する	・消費生活について考え理解する。 ・生涯を見通す。

評価の割合	考查点 6 0 % 観点別 4 0 %			
考查の実施	前期期末・後期期末 評価は 4 回（前期中間・前期期末・後期中間・後期期末）			
観点別の評価	主な評価内容	評 価 の 観 点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む意欲
	1 授業態度		○	○
	2 課題提出	○	○	○
	3 小テスト	○	○	○
留意事項	・人の一生と家族、家庭及び衣食住などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得する。 ・基礎縫製や調理実習などの作業では、集団での自己を理解し、互いに協力して仕事を進め、真剣な態度で実習に取り組むようにする。			

【教科情報】

情報 I

履 修 学 科	普通科，美術・デザイン科
履 修 学 年	第 1 学年
履 修 形 態	必修
履 修 単 位	2 単位
教 科 書	最新 情報 I 日本文教出版

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前 期 中 間	4 5 6	第 1 章 1 節 情報の特性 2 節 メディアの特性 3 節 問題解決の考え方	・情報、メディアの特性を考える。 ・問題解決の考え方を身につける ・著作権侵害について考える。 ・個人情報について考える。 ・サイバー犯罪について考える。
		4 節 法の重要性と意義—知的財産権 5 節 法の重要性と意義—個人情報 6 節 情報社会と情報セキュリティ 7 節 情報技術の発展による生活の変化 8 節 情報技術の発展による社会の変化	・ソーシャルメディアの適切な活用法を身につける。 ・情報技術の発展と社会の変化を考える。 ----- ・PC、文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの基本操作 ・プログラミングについて
		第 2 章 1 節 メディアとコミュニケーション 2 節 情報のデジタル化 3 節 情報デザイン	・メディアの発達、コミュニケーションの形態や特性を理解する。 ・情報機器のパーソナル化とソーシャルメディアの関係性を理解する。 ・アナログとデジタルの違い、2 進法と情報の単位との関係を理解する。 ・コンピュータによる情報の表現のしくみを理解する。 ・情報デザインの考え方を知る。 ・情報デザインによる問題解決のプロセスを理解する。 ----- ・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの基本操作 ・プログラミング基礎
		第 3 章 1 節 コンピュータのしくみ 2 節 アルゴリズムとプログラム 3 節 モデル化とシミュレーション	・コンピュータの基本的な構成を理解する。 ・CPU による演算のしくみを理解する。 ・アルゴリズムの基本構造を確認し、図や表で表現する方法を知る ・変数、データ型、演算子、関数などプログラムを構成する要素を確認する。 ・配列など、プログラミングでデータを効率よく利用する方法を理解する。 ・グループ分けプログラムの作成手順を見ながらプログラミングの方法を理解する。 ・モデル化とシミュレーションの考え方を理解する。 ・プログラミングによりコンピュータを用いてシミュレーションをする。 ----- ・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用 ・プログラミングの基礎と演習
前 期 期 末	7 8 9		
後 期 中 間	10 11 12		

後 期 期 末	1	第4章 ネットワークとセキュリティ	・コンピュータネットワークの構成を 理解する。 ・データ伝送のしくみとプロトコルの役割を理解する。 ・暗号化などの情報セキュリティを高める方法について理解する。 ・データの活用が問題解決に役立つことを踏まえ、データ収集の方法を理解する。 ・数値データ、テキストデータの分析方法を理解する。 ・文書作成、表計算、プレゼンテーションソフトの活用 ・プログラミング演習
	2	1 節 情報通信ネットワークのしくみ	
	3	2 節 情報システムとデータベース	
	3	3 節 データの活用	

評価の観点	a. 知識・技能	b. 思考・判断・表現	c. 主体的に学習に取り組む態度
	効果的なコミュニケーションの実現，コンピュータやデータの活用について理解し，技能を身につけているとともに，情報社会と人との関わりについて理解している。	事象を情報とその結び付きの視点から捉え，問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に用いている。	情報社会との関わりについて考えながら，問題の発見・解決に向けて主体的に情報と情報技術を活用し，自ら評価し改善しようとしている。
【評価場面】			
授業中の発言・観察	○	○	○
グループ協議		○	○
提出課題	○	○	○
小テスト	○	○	
実技テスト (年2回)	○	○	
定期考査 (年2回)	○	○	

【美術科】

構成

履修学科	美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	4単位
教科書	高校生の美術 I

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	〈形体、色彩〉 〈材料〉 〈平面構成〉	- 対象の形体や色彩、素材を観察し描く。 - 色彩の機能などを理解し、構成の美しさなどを考えながら平面に表す。 - 紙を使用した演習を通し、切る、折る、破るなどの行為を通し、表出した形からデザインする。 - 生徒や作家の作品を鑑賞し、見方や感じ方を深める。
	5	〈立体構成〉	
	6	〈鑑賞〉 ※以上の内容についてグループごとに期間を分けてローテーションで行います。	
前期 期末	7	〈形体、色彩〉 〈材料〉 〈平面構成〉	- 対象の形体や色彩、素材を観察し描く。 - 色彩の機能などを理解し、構成の美しさなどを考えながら平面に表す。 - 紙を使用した演習を通し、切る、折る、破るなどの行為を通し、表出した形からデザインする。 - 生徒や作家の作品を鑑賞し、見方や感じ方を深める。
	8	〈立体構成〉	
	9	〈鑑賞〉 ※以上の内容についてグループごとに期間を分けてローテーションで行います。	
後期 中間	10	〈形体、色彩〉 〈材料〉 〈平面構成〉	- 対象の形体や色彩、素材を観察し描く。 - 色彩の機能などを理解し、構成の美しさなどを考えながら平面に表す。 - 紙を使用した演習を通し、切る、折る、破るなどの行為を通し、表出した形からデザインする。 - 生徒や作家の作品を鑑賞し、見方や感じ方を深める。
	11	〈立体構成〉	
	12	〈鑑賞〉 ※以上の内容についてグループごとに期間を分けてローテーションで行います。	
後期 期末	1	〈形体、色彩〉 〈材料〉 〈平面構成〉	- 対象の形体や色彩、素材を観察し描く。 - 色彩の機能などを理解し、構成の美しさなどを考えながら平面に表す。 - 紙を使用した演習を通し、切る、折る、破るなどの行為を通し、表出した形からデザインする。 - 生徒や作家の作品を鑑賞し、見方や感じ方を深める。
	2	〈立体構成〉	
	3	〈鑑賞〉 ※以上の内容についてグループごとに期間を分けてローテーションで行います。	

評価の割合	課題評価（考査含む）と観点別評価を総合的に評価する。			
考査の実施	年2回実施 前期期末・後期末			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○
	5 考査	○	○	

【美術科】

美術概論

履修学科	美術・デザイン科
履修学年	第1学年
履修形態	必修
履修単位	2単位
教科書	高校生の美術 I

学期・月		項 目	ねらい・教材など
前期 中間	4	〈美術に関する基礎的な理論〉 〈自然の中の美術、生活や社会の中の美術〉 〈知的財産権と肖像権〉	- 色彩、技法、材料や用具に関する知識について作品制作を通して理解する。 - 自然物を観察し、形や構造など自然のもつ美しさを感じ取り、表現する。 - 生活や社会における美術の働きを考える。 - 鑑賞などを通して知的財産権と肖像権などへの理解を深める。
	5		
	6	※以上の内容についてグループごとに期間を分けてローテーションで行います。	
前期 期末	7	〈美術に関する基礎的な理論〉 〈自然の中の美術、生活や社会の中の美術〉 〈知的財産権と肖像権〉	- 色彩、技法、材料や用具に関する知識について作品制作を通して理解する。 - 自然物を観察し、形や構造など自然のもつ美しさを感じ取り、表現する。 - 生活や社会における美術の働きを考える。 - 鑑賞などを通して知的財産権と肖像権などへの理解を深める。
	8		
	9	※以上の内容についてグループごとに期間を分けてローテーションで行います。	
後期 中間	10	〈美術に関する基礎的な理論〉 〈自然の中の美術、生活や社会の中の美術〉 〈知的財産権と肖像権〉	- 色彩、技法、材料や用具に関する知識について作品制作を通して理解する。 - 自然物を観察し、形や構造など自然のもつ美しさを感じ取り、表現する。 - 生活や社会における美術の働きを考える。 - 鑑賞などを通して知的財産権と肖像権などへの理解を深める。
	11		
	12	※以上の内容についてグループごとに期間を分けてローテーションで行います。	
後期 期末	1	〈美術に関する基礎的な理論〉 〈自然の中の美術、生活や社会の中の美術〉 〈知的財産権と肖像権〉	- 色彩、技法、材料や用具に関する知識について作品制作を通して理解する。 - 自然物を観察し、形や構造など自然のもつ美しさを感じ取り、表現する。 - 生活や社会における美術の働きを考える。 - 鑑賞などを通して知的財産権と肖像権などへの理解を深める。
	2		
	3	※以上の内容についてグループごとに期間を分けてローテーションで行います。	

評価の割合	課題評価と観点別評価を総合的に評価する。			
考査の実施	なし			
観点別評価	主な評価内容	評価の観点		
		知識・技能	思考力・判断力・表現力	主体的に学習に取り組む力
	1 授業態度			○
	2 出席状況			○
	3 課題提出	○	○	○
	4 レポート	○	○	○